

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-4

< 第44週 > 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は横ばいであったが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.5-7

< 感染性胃腸炎 > 報告の中心は乳幼児であり、例年5歳以下が全報告数のほぼ60%を占めている



病原体情報
P.8-10

インフルエンザウイルス 2005/06シーズン / 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2005/06シーズン / 無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス 2005年



速報
P.11-15

レジオネラ症 1999年4月～2005年第44週 / 2005年10月下旬に分離されたA香港(H3N2)型インフルエンザウイルス - 広島県



海外感染症情報
P.16-18

WHOに報告された鳥インフルエンザ患者数 / インドネシアでの鳥インフルエンザ流行状況 / ベトナムでの鳥インフルエンザ流行状況 / ブラジルでの吸血コウモリによる狂犬病リスクについて / マリでの黄熱流行 / 西アフリカでの黄熱の状況



感染症の話
P.19

< 今週はお休みです >



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(44週)
P.20-26



44週のデータ
P.27-38



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(平成15年11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)。

< 第44週コメント > 11月10日集計分

全数報告の感染症

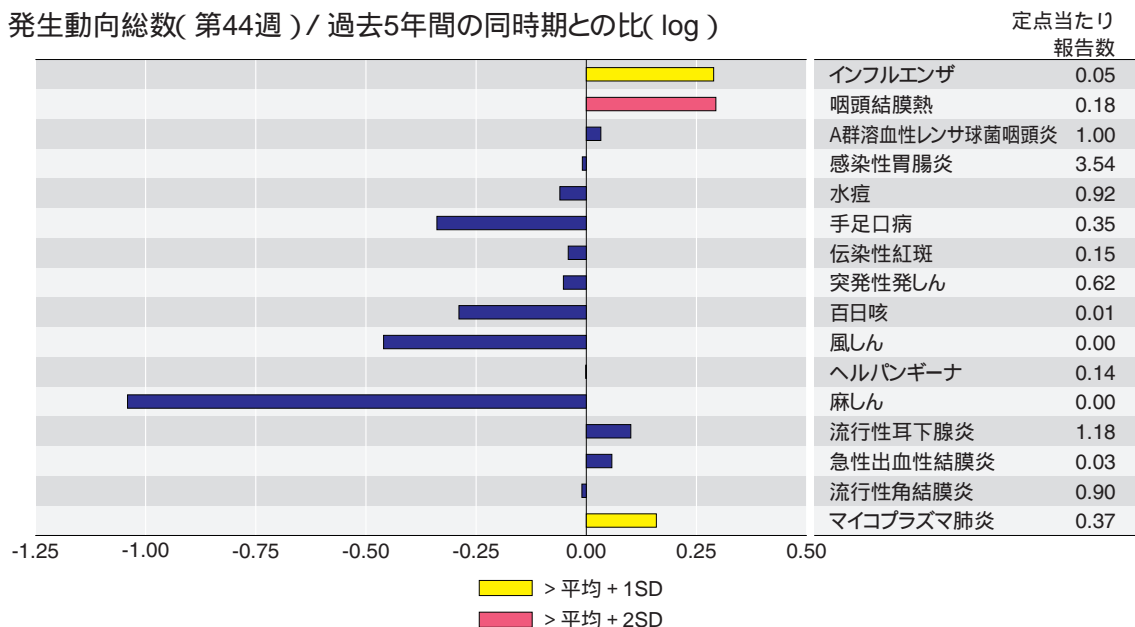
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることとなります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: 細菌性赤痢 2例(推定感染地域: フィリピン1例、インド1例)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 48例(うち有症者23例)
 報告の多い都道府県: 山口県(11例) 兵庫県(7例)
 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2 27例) O157 VT2 13例) O26 VT1 (2例)
 O111 VT1 (1例) その他(5例)
 年齢: 10歳未満(18例) 10代(2例) 20代(4例) 30代(8例) 40代(5例)
 50代(6例) 60代(4例) 70歳以上(1例)
 - 4類感染症: つつが虫病 8例(福島県2例、岩手県1例、山形県1例、群馬県1例、岐阜県1例、静岡県1例、高知県1例)
 デング熱 2例(推定感染地域: インド1例、ベトナム1例)
 日本脳炎 2例(とともに70代 . 島根県1例、熊本県1例)
 レジオネラ症 5例(50代1例、60代2例、70代1例、80代1例)
 - 5類感染症: アメーバ赤痢 7例
 推定感染地域: 国内6例、ネパール1例
 推定感染経路: 経口2例、性的接触(異性間)3例、不明2例
 ウイルス性肝炎 1例(B型_推定感染経路: 不明)
 後天性免疫不全症候群 11例(無症候9例、AIDS 1例、その他1例)
 推定感染経路: 性的接触9例(異性間2例、同性間6例、異性間/同性間1例) 不明2例
 推定感染地域: 国内8例、中国1例、不明2例
 梅毒 3例(無症候2例、先天梅毒1例)
 破傷風 3例(50代1例、60代1例、70代1例)
- (補)他に、報告遅れとして、E型肝炎1例(推定感染地域: 国内、推定感染源: 牛レバー)
 日本脳炎1例(30代、静岡県) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(50代) 急性脳炎1例(病原体不明、70代) の報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第44週) / 過去5年間の同時期との比(log)



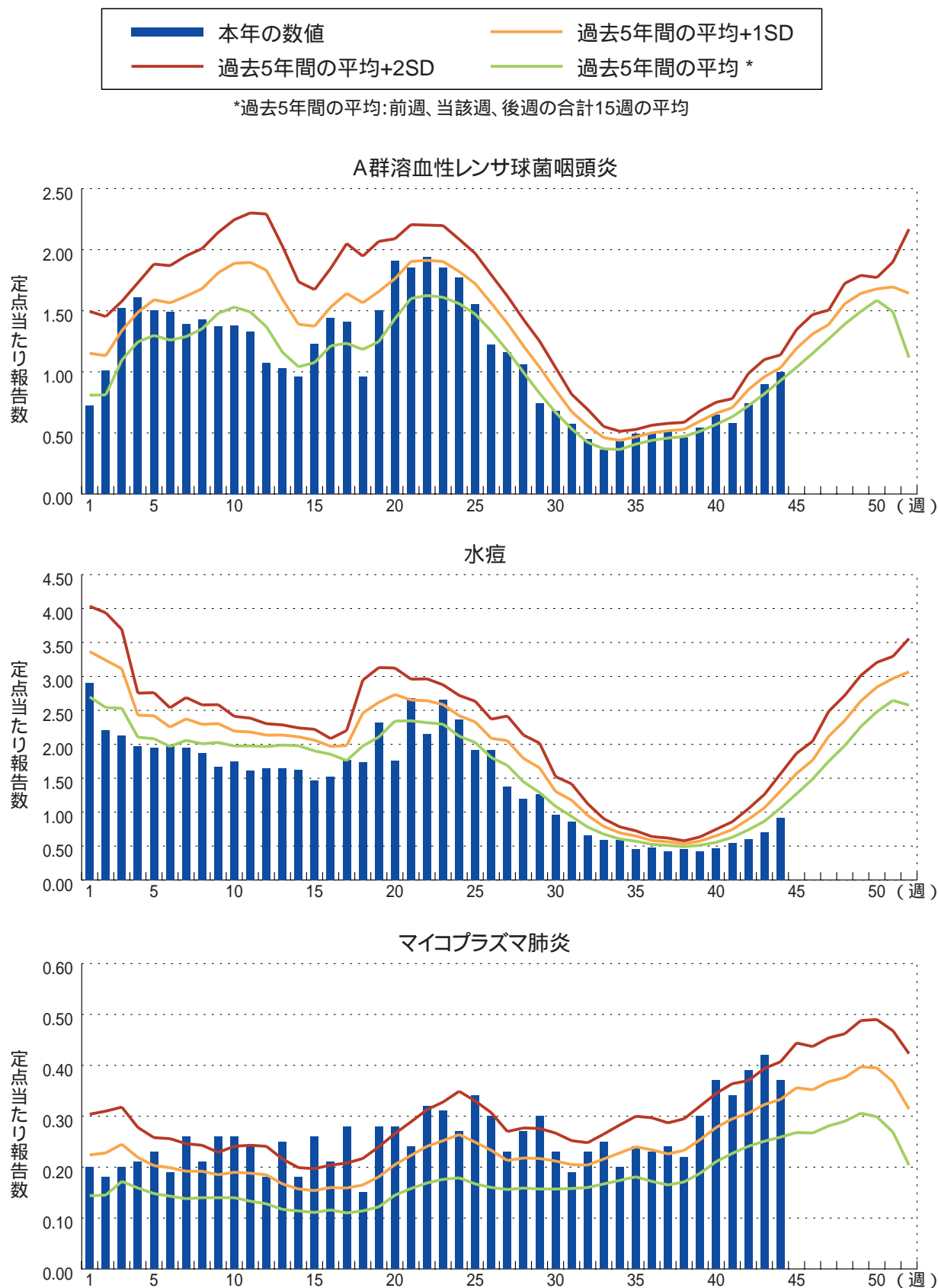
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

インフルエンザ : 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い状態が続いている。都道府県別では沖縄県(1.26)、熊本県(0.40)、福井県(0.19)が多い。

小児科定点報告疾患 : 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は横ばいであったが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では山形県(0.73)、福井県(0.55)、宮城県(0.49)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では鳥取県(2.2)、北海道(2.1)、山形県(1.8)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では福岡県(7.4)、兵庫県(7.3)、大分県(7.1)が多い。水痘の定点当たり報告数は第39週以降、増加が続いている。都道府県別では新潟県(2.2)、福井県(1.7)、長野県(1.5)が多い。手足口病の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では香川県(1.9)、愛媛県(1.2)、群馬県(1.2)が多い。百日咳の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では佐賀県(0.09)が多い。風しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では鳥取県(0.05)、青森県(0.02)、栃木県(0.02)、群馬県(0.02)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第28週以降、減少が続いている。都道府県別では高知県(1.16)、宮崎県(0.97)、香川県(0.53)が多い。麻しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では栃木県(0.04)、東京都(0.01)、神奈川県(0.01)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県(4.4)、石川県(3.7)、鳥取県(2.9)が多い。RSウイルス感染症は、ゼロ報告を含めて41都道府県から444例の報告があり、報告数は3週連続で増加した。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の約78%を占めている。

基幹定点報告疾患 : マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では福島県(2.4)、群馬県(1.5)、大阪府(1.4)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2005年第1～44週)
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎とは、多種多様な原因によるものを包含する症候群であり、1999年4月の感染症法施行により、それ以前の「感染症サーベイランス事業」における感染性胃腸炎(ウイルスまたは細菌による感染性胃腸炎を一括したもの)と乳児嘔吐下痢症が一括されて調査対象となったものである。すなわち、臨床上的診断名というよりもサーベイランス上の症候群としての色彩が強い。原因としては、夏季はサルモネラ、腸炎ビブリオ、下痢原性大腸菌などの細菌が問題となることが多いが、実際に報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルスなどのウイルス感染を原因とする。

感染性胃腸炎の発生動向をみると、多くの場合、第51週前後に大きなピークがあり、さらに冬季の終わりから春先頃に小さなピークがみられることが多いが(図1)、前者はノロウイルス、後者はロタウイルスに関連しているものと考えられる《感染症情報センターホームページIASRウイルス検出状況・グラフ1: SRSV(ノロウイルス、サポウイルス)&ロタウイルス参照》。

感染性胃腸炎報告の中心は乳幼児であり、例年5歳以下が全報告数のほぼ60%を占めている(図2)。また、年間の累積報告数は2001年以降、わずかに増加傾向にある(図3)。しかし、2005年の第44週までの累積報告数は667,082で、2004年の同時期の報告数(713,413)よりも少ない。図4には、2005年の第44週までの定点当たり累積報告数の上位3県(順に福井県、宮崎県、大分県)と、全国平均の週別の推移を示すが、これら3県は今年に入って常に全国平均を上回った状態が続いている。

これまでの感染性胃腸炎の発生動向をみると、例年11月中旬以降(40週後半)より、ノロウイルスによると思われる報告数の急激な増加が認められ、年末のピークへと向かっている(図1)。2005年もこれまでと同様に、今後は感染性胃腸炎の発生が大きく増加していくことが予想され、その発生動向には注意する必要がある。

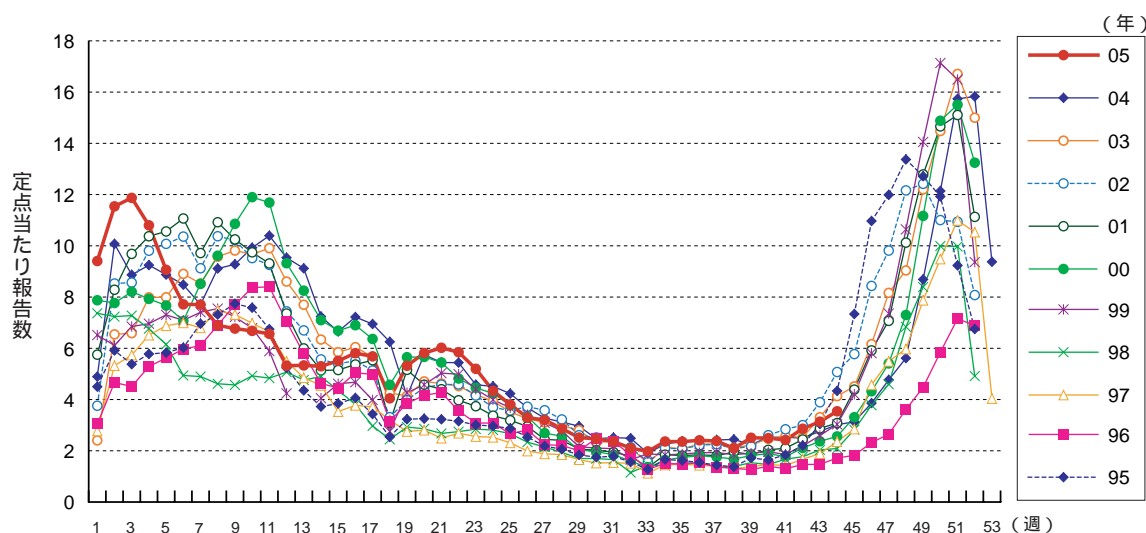


図1. 感染性胃腸炎の年別・週別発生状況(1995 ~ 2005年第44週)

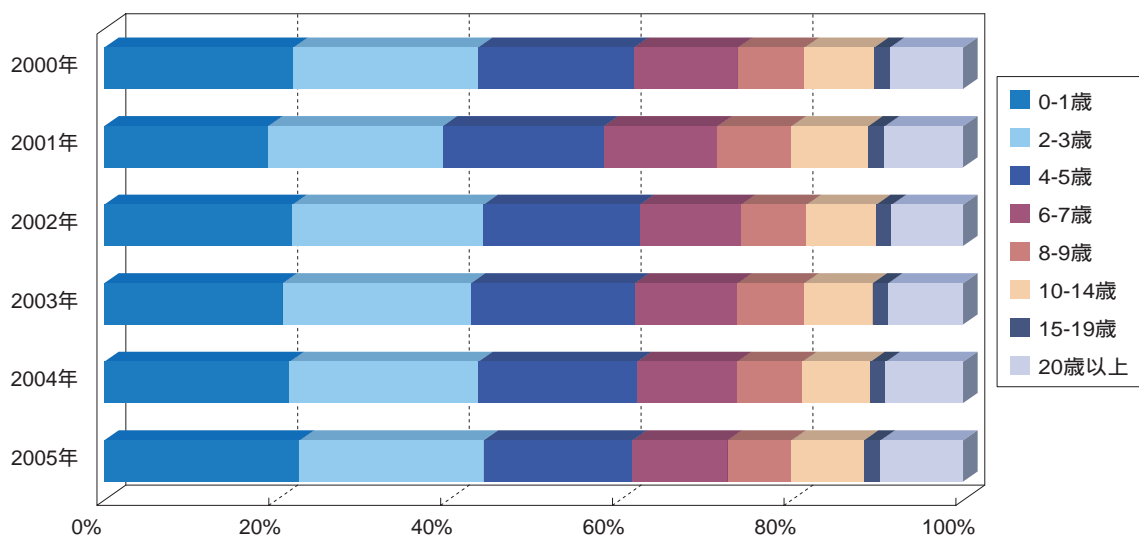


図2. 感染性胃腸炎報告症例の年齢別割合(2000年～2005年第44週)

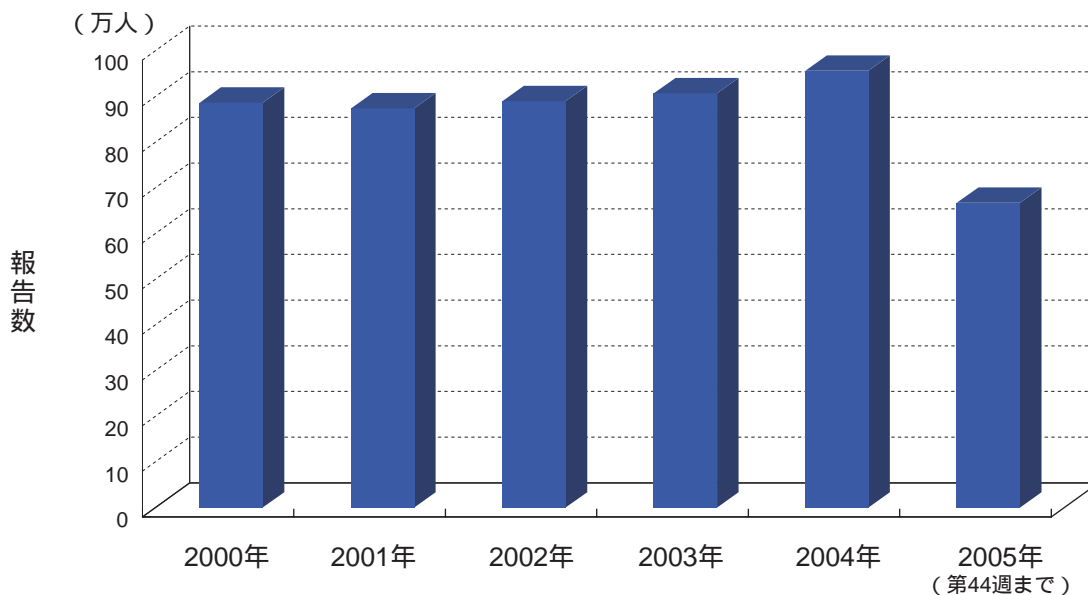


図3. 感染性胃腸炎の年別発生状況(2000～2005年第44週)

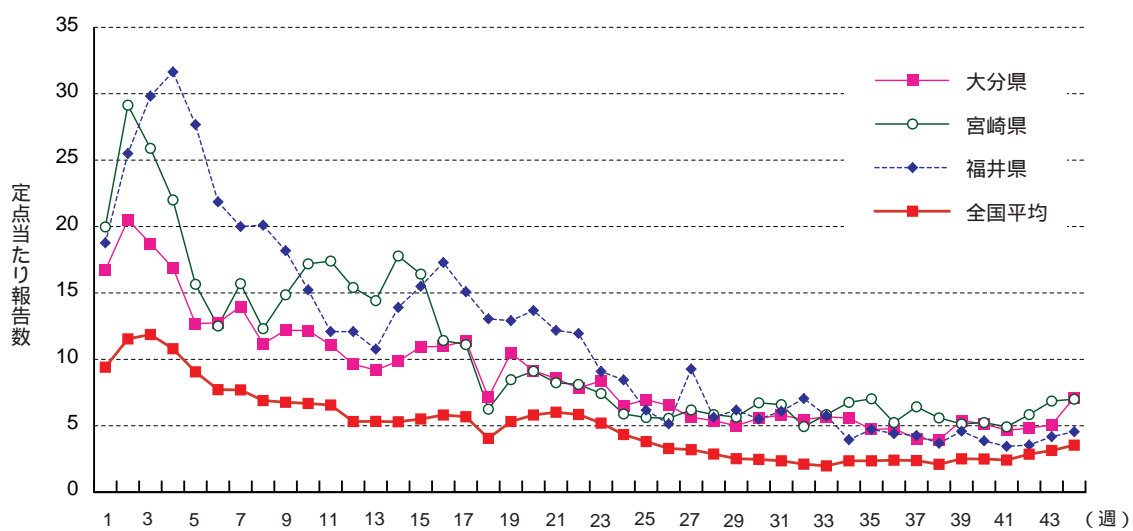


図4. 主要都道府県における感染性胃腸炎の週別発生状況(2005年第1 ~ 44週)



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2005年11月11日現在報告分)

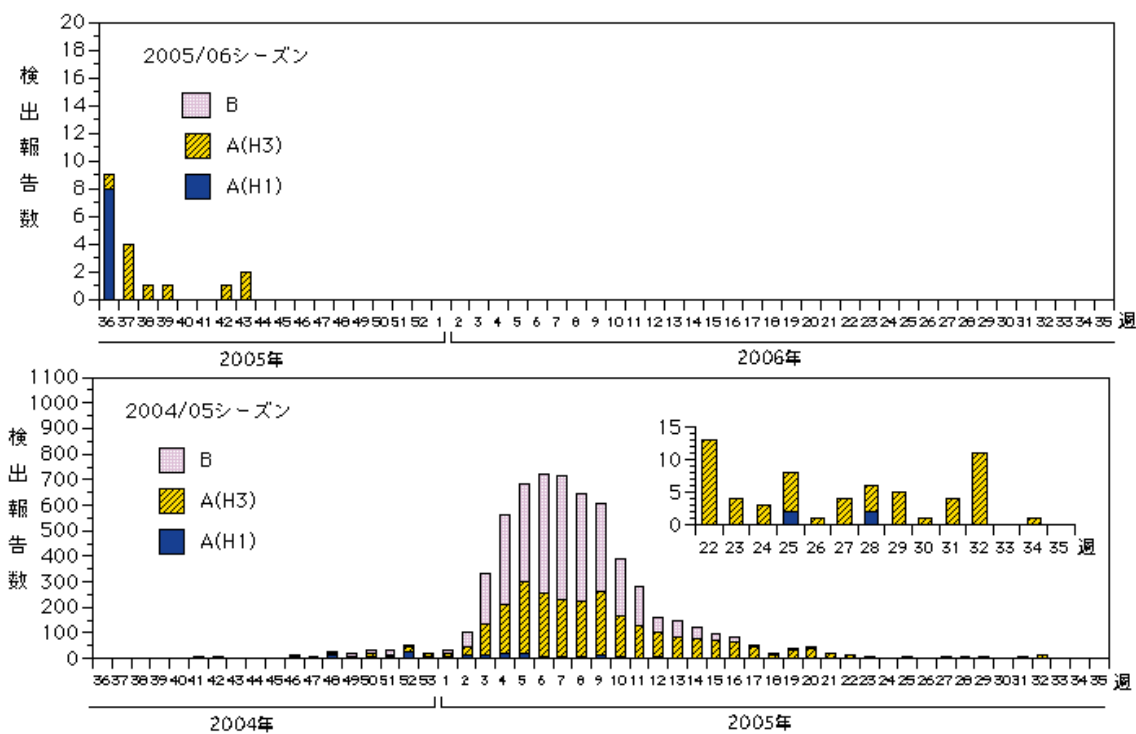
インフルエンザウイルス 2005/06シーズン

AH3型は第36週と第37週に三重県で散発例から各1件、第37～38週に長崎県で小学校の集団発生から4件、第39週に兵庫県でタイからの帰国者から1件、第42週に沖縄県で中学校の集団発生から1件、第43週に兵庫県と広島県(本号15ページ速報記事参照)で散発例から各1件、計10件の分離が報告されている。

AH1型は第36週に東京都で、小学校の集団発生からPCRで8件検出されている。B型の分離報告はない。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2004/05シーズン&2005/06シーズン

(病原微生物検出情報: 2005年11月11日現在報告数)



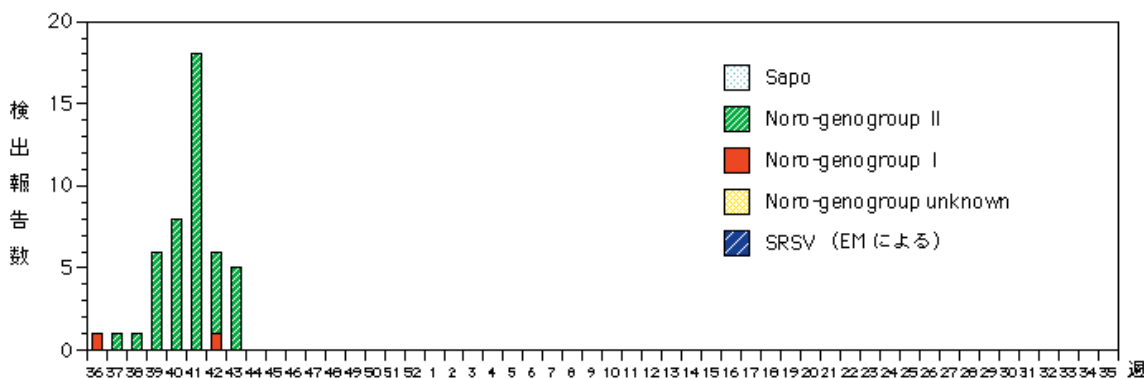
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2005/06シーズン

ノロウイルスgenogroup IIの検出が第37～43週に滋賀県から14件(食中毒集団発生)、岩手県から13件、鹿児島県から11件、秋田県から4件、愛媛県と大分県から各1件で計44件、genogroup Iの検出が大分県から第36週と第42週に各1件報告されている

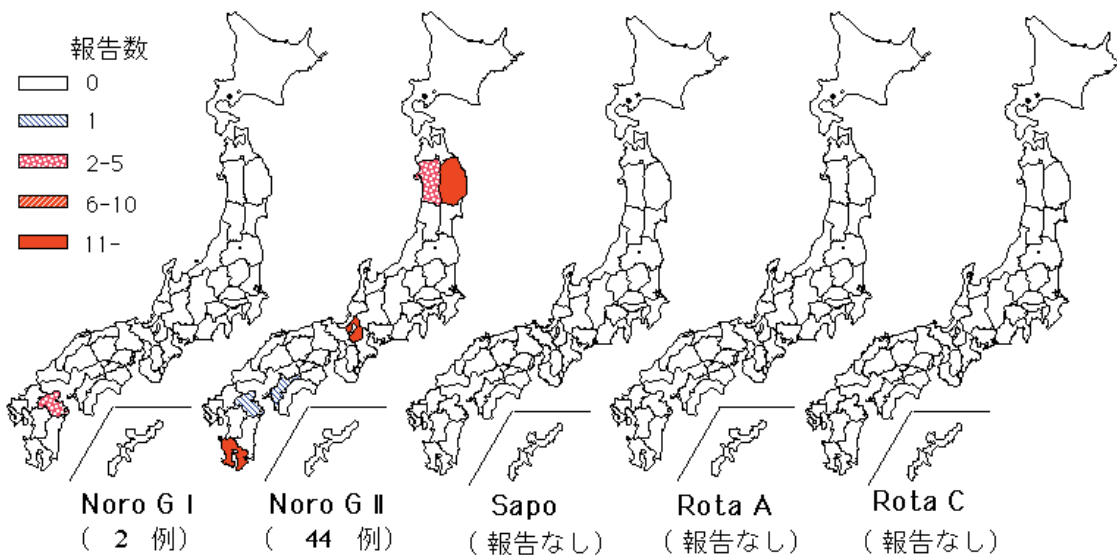
検出されたSRSVの内訳、2005/06シーズン (病原微生物検出情報：2005年11月11日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



都道府県別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告状況、2005/06シーズン
(病原微生物検出情報：2005年11月11日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。

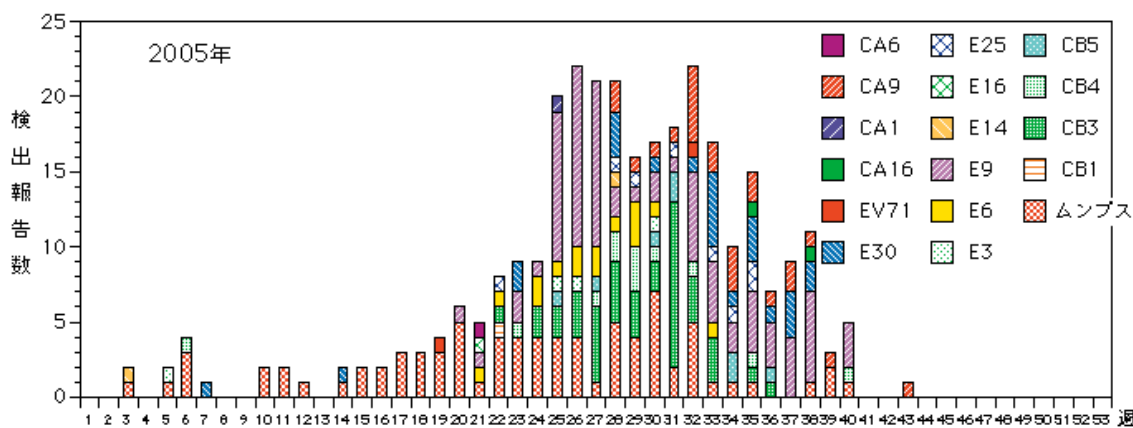


無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス 2005年

2005年の検出総数は330件で、このうちムンプスウイルスが81件と4分の1を占めている。エンテロウイルスではエコーウイルス9型(E9)が76件、B群コクサッキーウイルス3型(CB3)が42件、E30が25件、A群コクサッキーウイルス9型(CA9)が23件、E6が15件、CB4が12件、CB5、E25が各8件、E3が4件、CA16、E5、E11、E14、E18、EV71が各2件、CA6、CB1、E16、ポリオ3型が各1件報告されている。

E9は長崎県、CB3は香川県、E30は千葉県と東京都、CA9は秋田県で主に検出されている。

週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス検出報告数、2005年 (病原微生物検出情報：2005年11月11日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



レジオネラ症 1999年4月～2005年第44週

レジオネラ症はレジオネラ属菌(主に*Legionella pneumophila*)による感染症で、その病型には肺炎型と感冒様のポンティアック熱型があるが、後者は1968年に米国ミシガン州ポンティアックで、多数の急性発熱患者が出たことに由来する。肺炎型では、症状のみで他の病原体による肺炎と鑑別することは困難ではあるが、四肢の脱力や意識障害などの神経・筋症状を伴う例や、急速に全身状態が悪化する例があるので注意が必要である。レジオネラ属菌は、本来水中や湿った土壌などの自然環境に普通に存在している細菌であるが、15～43℃で繁殖し、循環式浴槽水、空調施設の冷却塔水、給湯器の水などの人工的な温水中に生息するアメーバなどの原虫の細胞内で増殖している。そのため、打たせ湯、ジャグジー、加湿器、噴水などにより発生したエアロゾルを吸入することで、気道感染を起こして発症することが知られている。

レジオネラ症は1999年4月の感染症法施行から全数把握の対象疾患となり、無症状病原体保有者を含め、診断したすべての医師に届け出が義務付けられている。届け出は肺炎型とポンティアック熱型に分類されておらず、届出票の症状記載からの判別も難しいが、ポンティアック熱は集団発生などで発見されることがあっても、散发例での診断は困難なことがほとんどなので、届け出患者のほとんどは肺炎型と推測される。

感染症法のもとで報告されたレジオネラ症は、1999年(4月～)66例、2000年154例、2001年86例、2002年167例、2003年146例、2004年161例であり、2005年は、第19週(5月中旬)から増加傾向が認められ、第44週までに225例であった(図1)。集団感染事例として、2000年3月に静岡県(温泉:23例)、2000年6月に茨城県(総合福祉センター入浴施設:24例)、2002年7月に宮城県(温泉:34例)で、いずれも循環式浴槽水による集団感染があり、また、2002年8月に鹿児島県(9例)で同じく循環式温泉施設によると推定される集団感染がみられた(IASR vol. 21 No9、IASR vol. 24 No2)(図2)。2005年においては明らかな集団発生事例の報告が認められないにもかかわらず、第44週までですでに過去最高の報告数となっている。都道府県別にみると、東京都20例、大阪府17例、埼玉県および愛知県15例、宮城県14例、神奈川県13例などが多かった。一方、1例も報告のない都道府県は6県みられた。ただしこれらの数値は必ずしも、感染を受けた都道府県を示すものではない。

1999年4月～2005年第44週までの累積報告数995例のうち、発症日の記載のある934例(1999年4月以前の発症例を除く)についてみると、前述の集団発生を除けば、発症月に明らかな偏りは認められなかった(図2)。

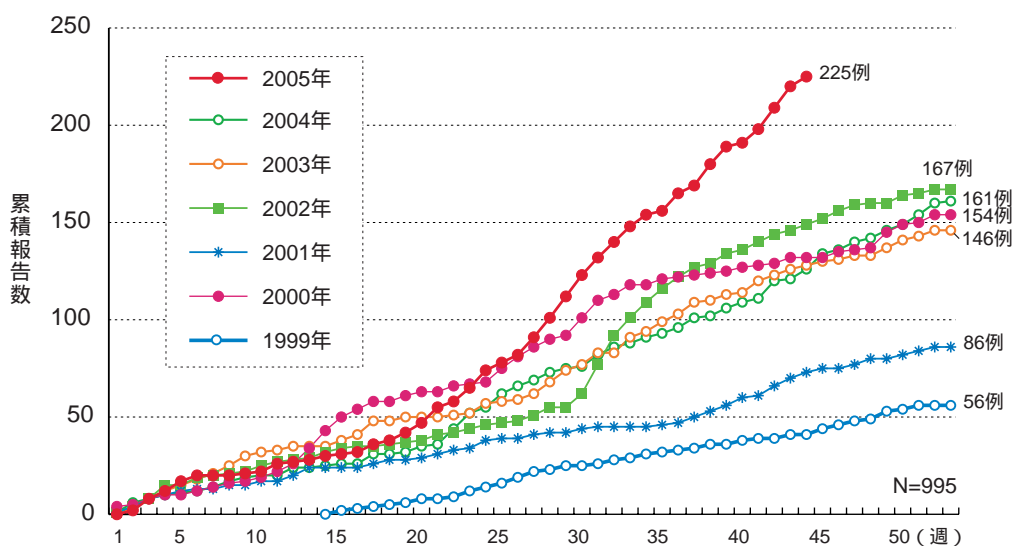


図1. レジオネラ症の年別累積報告数の推移(1999年4月 ~ 2005年第44週)

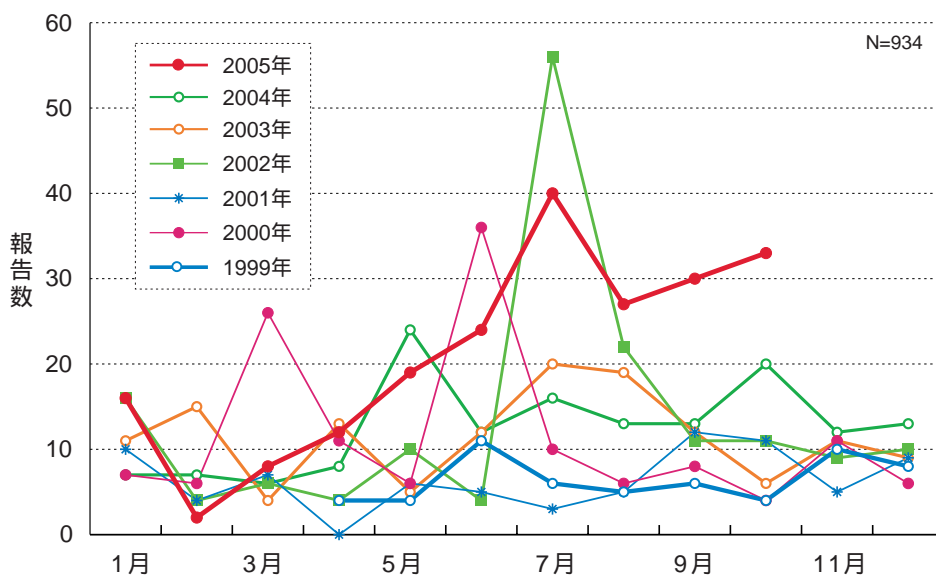


図2. レジオネラ症の発症月別報告数(1999年4月 ~ 2005年第44週)

995例の性別では、男性867例、女性128例であり、男性が圧倒的に多く87.1%を占めた。また、年齢は0～95歳(年齢中央値は63歳)であり、年齢群(10歳毎)別にみると0～9歳(11例)、10～19歳(4例)、20～29歳(11例)、30～39歳(15例)、40～49歳(75例)、50～59歳(266例)、60～69歳(317例)、70～79(236例)、80～90歳(53例)、90歳以上(7例)で、50歳以上が88.3%を占めた。男性では60代をピークに50代、70代の順に多く、女性では70代、60代、50代の順に多かった。一方、罹患率(人口10万人当たり)の年齢分布をみると、報告数の分布とは異なり、男性では70代、60代、50代の順となり、女性では40代から90代まで年齢が上がるにつれて高くなった(図3)。

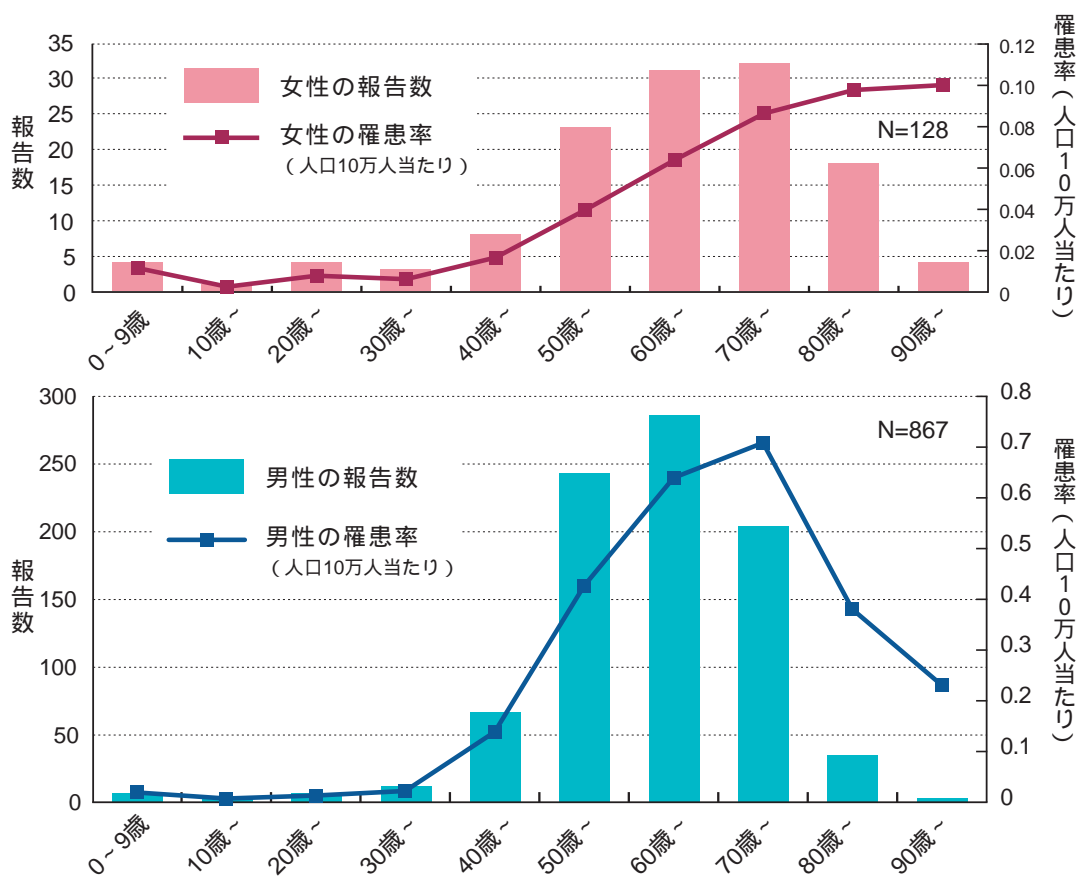


図3. レジオネラ症の性別・年齢群別報告数と罹患率(1999年4月 ~ 2005年第44週)

死亡の報告は51例(男性40例、女性11例)で、致死率は5.34%である。ただし、感染症法の元では、届け出後に死亡した症例が反映されていないこともありうる。死亡例の年齢は0 ~ 88歳(中央値68歳)であった。

995例のうち、診断方法が記載されていた968例について、年次別にその方法をみると、大きな変化が認められる。即ち、1999年には約20%を占めるに過ぎなかった尿中抗原検査法が、年々その割合を増し、2005年(~ 第44週)には約90%を占めるようになった。2005年の累積報告数255例について、検査法の記載されていた223例に限ってみると、尿中抗原のみが199例であり、尿中抗原 + 他の検査(PCR法、血清診断、培養)が6例、PCR法単独が4例、血清診断 + 培養が14例であった(図4)。また、この尿中抗原検査法の普及に伴って、診断に要した期間の短縮傾向が認められた(図5)。

届出項目である「推定感染源・感染経路」について記載のあった565例についてみると、温泉252例(44.6%)、循環式浴槽水35例(6.2%)であった。

レジオネラ菌が土埃などとともに冷却塔、循環式浴槽、給湯設備、加湿器などの人工環境水系に混入することは避けられない。入浴施設などにおいては、人工環境水設備マニュアルに沿った適切な換水や清掃、消毒を行うことが求められる。

レジオネラ菌は細胞内寄生菌であることから、有効な抗菌薬を選択することが極めて重要である。臨床症状のみでは他の肺炎との鑑別はほとんど不可能であり、尿中抗原検査法の普及は、診断率の向上と診断に要する期間の短縮をもたらし、本症の診断・治療に大きな功績を挙げたといえる。しかし尿中抗原検査の増加に伴い、従来行われていた喀痰などの検体の採取・保存の頻度が少なくなることも危惧される。温泉や入浴施設における集団発生が疑われる場合、あるいは家庭風呂であってもさらなる感染拡大を防止するためには、感染源を特定することが重要であり、そのため患者と環境(浴槽水など)から分離されたレジオネラ菌の細菌学的な解析が有用である。したがって、診療時の問診や保健所などの調査の際には、感染源・感染経路に関する疫学情報の収集を行うと同時に、菌分離の必要性を判断することが重要である。

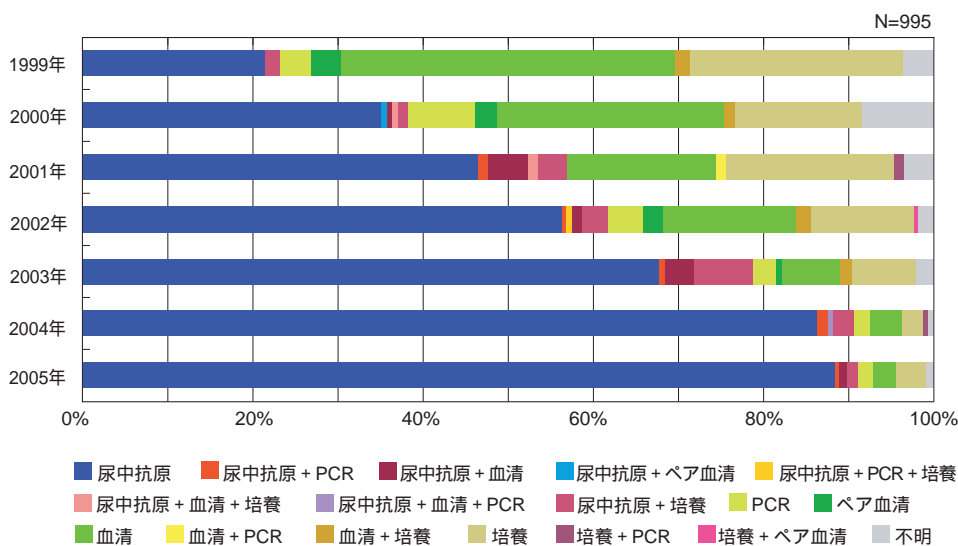


図4. レジオネラ症報告症例における検査法(1999年4月 ~ 2005年第44週)

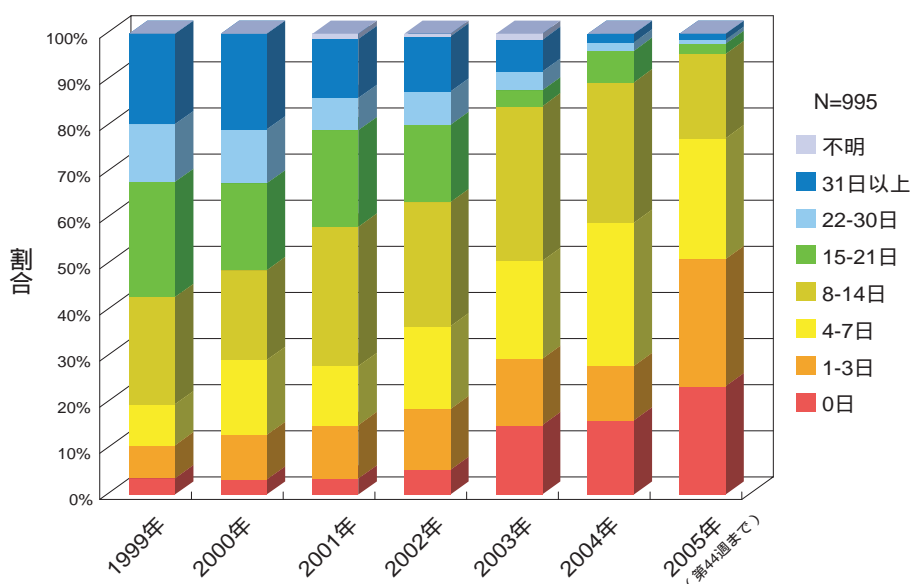


図5. レジオネラ症における初診から診断までの日数(1999年4月 ~ 2005年第44週)

2005年10月下旬に分離されたA香港(H3N2)型インフルエンザウイルス - 広島県

2005年10月下旬に、広島市内の小児科医院を受診した患者からA香港型ウイルスが分離されたので、概要を報告する。

患者は広島市内に在住の10歳6カ月齢の男児で、10月22日に38.3 の発熱を伴う上気道炎を発症したため、10月24日に小児科医院を受診し、その際に実施されたインフルエンザ迅速診断キットでA型と判定されたことから、A型インフルエンザの可能性が疑われた。なお、患者本人および家族には、最近の海外渡航歴はなかった。

広島県保健環境センターにおいて、確定診断のためのウイルス学的検査を実施した。受診時に採取された鼻腔吸引液からRNAを抽出し、インフルエンザウイルスのHA遺伝子、あるいはNA遺伝子の(亜)型特異的なプライマーを用いてRT-PCR検査を実施した結果、インフルエンザA/H3N2型ウイルスとの結果であった。併せて、患者の鼻腔吸引液をLLC-MK2細胞とMDCK細胞に接種したところ、LLC-MK2細胞では接種後4日目に、MDCK細胞では接種後8日目に著明なCPEが認められた。それらの培養上清についてHA価を測定したところ、0.75%モルモット赤血球では4HAの凝集が認められたが、0.5%ニワトリ赤血球と0.5%七面鳥赤血球では凝集は認められなかった。そこでさらに各培養細胞で継代したところ、MDCK細胞2代目で、いずれの血球でも8HAの凝集が認められたので、この培養上清を用いてHI試験を行った。

HI試験は国立感染症研究所から配布された2005/06シーズン用の抗血清と、参考のために、2004/05シーズン用抗血清の抗A/Wyoming/03/2003(H3N2)血清、2003/04シーズン用抗血清の抗A/Panama/2007/99(H3N2)血清および抗A/Kumamoto(熊本)102/2002(H3N2)血清を用い、0.75%モルモット赤血球を用いて実施した。その結果、H3N2型に対する抗血清のうち、抗A/New York/55/2004血清に対しては80(ホモ価1,280)、抗A/Wyoming/03/2003血清に対しては16(同1,280)、抗A/Panama/2007/99血清に対しては<10(同1,280)、抗A/Kumamoto(熊本)/102/2002血清に対しては16(同2,560)のHI価を示した。なお、抗A/New Caledonia/20/99(H1N1)血清、抗B/Shanghai(上海)361/2002血清、抗B/Brisbane/32/2002血清に対しては、いずれも<10であった。

AH3型ウイルスに関しては、本年8月以降をみても複数の都道府県で分離されており、分離株の抗原性状についてIASR(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/index-kv.html>)に報告されている。それらの報告では、8月に奈良県で分離された株、9月に神戸市あるいは三重県で分離された株はいずれもA/Wyoming/03/2003類似株であり、一方、8月に名古屋市で分離された株はA/New York/55/2004類似株とされている。しかし今回我々が分離した株は、HI試験の結果を見る限り、A/New York/55/2004株ともA/Wyoming/03/2003株とも類似しているとは言い難く、それら他県で分離された株とは抗原性状に若干の違いがあるのかも知れない。今後、この株に類似したウイルスが広島県内で流行していくのか否かも含め、今後のインフルエンザの動向に注意していく必要があると考えている。

広島県保健環境センター・微生物第二部 高尾信一 島津幸枝 桑山 勝
福田伸治 宮崎佳都夫

原小児科 原 三千丸

(IASR 2005年12月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

WHOに報告された鳥インフルエンザ患者数

WHO/CSR 2005年11月17日

報告期間	2003/12/26 ~ 2004/3/10	2004/7/19/ ~ 2004/10/8	2004/12/16 ~ 現在	合計
インドネシア	0 (0)	0 (0)	11 (7)	11 (7)
ベトナム	23 (16)	4 (4)	65 (22)	92 (42)
タイ	12 (8)	5 (4)	4 (1)	21 (13)
カンボジア	0 (0)	0 (0)	4 (4)	4 (4)
中国	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (1)
合計	35 (24)	9 (8)	86 (35)	130 (67)

() は死亡者数

インドネシアでの鳥インフルエンザ流行状況

WHO/CSR 2005年11月7日

保健省は、鳥インフルエンザH5N1のヒト患者を新たに2例確認した。1例はTangerangの19歳女性で、10月19日に発症して、26日に入院し、28日に死亡した。2例目は1例目の弟で8歳で、25日に発症して現在入院中であるが、容態は落ち着いている。弟の住居の近くでは病鶏、死亡鶏が確認され、姉は発症前にこの辺りを訪れていた。インドネシアでは9例が発症し、5例が死亡している。

ベトナムでの鳥インフルエンザ流行状況

WHO/CSR 2005年11月9日

ベトナム保健省は、新たな鳥インフルエンザ感染患者1名を確認した。患者はハノイ市在住の35歳男性で、10月26日に呼吸器症状を呈して入院したが、10月29日に死亡した。この患者はベトナムでは、2005年7月後半以降初の患者である。2004年12月中旬以来、ベトナム当局は患者65名を報告したが、そのうち22名が死亡している。今回の患者の発生は、家禽での発生が繰り返した時期と一致している。

ブラジルでの吸血コウモリによる狂犬病リスクについて

Eurosurveillance Weekly, Vol. 10/ Issue 11 2005年11月10日

2005年10月25日にブラジル保健省は、同国北部の新しい地域で、吸血コウモリ(*Desmodus rotundus*)によって伝播されるヒト狂犬病患者が発生していることを報告した。2005年10月にはMaranhão州Turiçu地区で、死亡者12名が報告された。狂犬病による死亡者は今年、Godofredo Viana(3)、Cândido Mendes(2)およびCarutapera(2)でも報告され、現地メディアは、住民数百人がコウモリによる咬傷を受けたと報じた。これらの地区はMaranhão州の北部であり、2004年Pará州でのコウモリによって伝播された狂犬病患者の多発地区に隣接している。今回の流行中メディア報道では、発電施設が故障して6週間にわたり停電となったが、その時期に一致して夜間に咬むようになったと言われている。

1986年～2004年の期間、ブラジル保健省は狂犬病患者743名の報告を受けている。その大部分が北部および北東部での発生であった。主にイヌでの狂犬病対策により、患者数は1980年(170名以上)から2003年(20名以下)にかけて順調に減少していた。2003年まででは、ブラジル国内で報告されたヒト狂犬病患者の大部分が、都市部でのネコやイヌによる感染伝播であったが、2004年以降の感染の多くは、辺境のPará州やMaranhão州でのコウモリによる伝播となった。コウモリが感染源となる狂犬病流行は、アマゾン地域の継続的な森林伐採(破壊)に関係しており、その結果、吸血コウモリがブラジル北部に移動し、ヒトとの接触の機会が増加した。保健省はまた、Maranhão州内の放置された金鉱山が格好のコウモリのすみかとなっている、と指摘している。

感染の拡大を抑止するため、ワクチン接種およびコウモリ捕獲チームが現地で活動している。流行対策活動を共同で実施するため、10月には、2004年と2005年に狂犬病患者が発生した上記2州の当局者による会議が開催された。

全世界では、狂犬病によって1年間に約55,000人が死亡している。肉食獣やコウモリ類による咬傷の際、その唾液に含まれている狂犬病ウイルスはヒトに伝播される。コウモリ類には frugivorous(フルーツ食性)、hematophagous(吸血性)、あるいはinsectivorous(食虫性)がある。ヨーロッパでは飼いネコおよびイヌのワクチン接種と、野生動物への経口ワクチン接種によって、肉食獣からの感染伝播は制圧されている。吸血コウモリ(*Desmodus rotundus*)は、ウマやウシなどの温血動物から吸血する。それらの種はヨーロッパには土着していないし、ヨーロッパで確認される他の種のコウモリは、(古典的な)狂犬病ウイルス(遺伝子型1型)の保有宿主としては知られていない。狂犬病に感染したコウモリは異常行動を示すことがあり、ブラジルでの流行ではヒトを咬むという一般的ではない行動が見られたが、このことが説明の一部となりうるのかも知れない。(現在のWHOによる狂犬病曝露前、および曝露後予防についての指針の解説。省略)

ブラジルでの今回の流行の広がりについては十分に把握されていないため、渡航者への感染リスクは完全には確定できない。ブラジルの狂犬病患者発生地区を訪れる予定の旅行者については、特に辺地に長期滞在する場合は、ワクチン接種を考慮すべきである。このような旅行者には、狂犬病曝露発生の際には迅速な処置が必要であることの情報提供を行うべきである。堅固な外壁、遮蔽物やネットで保護された密閉空間で就寝することで、吸血コウモリによる感染曝露を減らせるはずである。アマゾン地域からの帰国者で動物による咬傷の可能性がある場合、直ちに、曝露後予防(ワクチン接種)に関して専門家による評価を受けるべきである。

マリでの黄熱流行

WHO/CSR 2005年11月10日

マリ保健省はWHOに、Kayes地区で疑い患者21名と死亡者14人を報告した。流行の中心はBafoulabé地方で、期間は10月7～27日である(既報参照)。疑い患者から得られた14検体はマリ国立リファレンスラボでの初期検査の後に、セネガル・ダカールのパスツール研究所WHO協力黄熱センターへ送付された。

保健省、MSF、WHOからなるチームが流行地域での疫学調査を実施している。保健省は周辺地域をカバーするために、400万人分の黄熱ワクチン追加支援を要請している。

西アフリカでの黄熱の状況

WHO/EPR(Epidemic and Pandemic Alert and Response)2005年11月10日

<http://www.who.int/csr/disease/yellowfev/westafrica/en/index.html>

黄熱ワクチン接種が十分に行われていない集団でウイルスの循環が盛んになる場合、急速な都市化と相まると、都市型流行の勃発をもたらす。さらに、免疫を持たない集団が汚染地域外部から汚染地へ自発的・強制的に流入することで、さらに状況が悪くなる。

アフリカでは2000年以来、黄熱は18カ国から報告されてきた。最も流行の激しい地域は西アフリカで、13カ国(72%)が流行に苦しんでいる。

西アフリカでは2000年以降、1例以上の黄熱患者を報告しているのは14カ国あるが、そのうち13カ国で常に流行が起き、患者発生を報告している。西アフリカで黄熱感染のリスクのある国はベナン、ブルキナファソ、コートジボアール、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニアビサオ、リベリア、マリ、モーリタニア、ナイジェリア、セネガル、シエラレオーネ、トーゴである。

西アフリカで主に黄熱が再興している国は、1933 ~ 1961年の大規模予防接種キャンペーンで獲得した“ 防御 ”を徐々に失いつつあるところであり、ベニン、ブルキナファソ、コートジボアール、ギニア、セネガル、トーゴなどである。

報告患者数は少数であるものの、報告症例が実際の問題の一部に過ぎないと仮定すると、憂慮すべき状況である。報告患者は、中規模の病院を受診した重症例のみである(非流行時には、最大で感染者全体の1 ~ 2%)。全数報告ができない理由としては、医療機関へのアクセスの問題、サーベイランスシステムの感度の問題、検査診断能力の問題、旅行業への悪影響の可能性の問題など、多数の要因が関与している。

さらに、西アフリカで黄熱の危険のある4カ国(コートジボアール、ギニア、リベリア、シエラレオーネ)は、複雑な緊急事態と考えられる。まず、人道問題により、定期予防接種が実施困難となっていること、次に、紛争により数千人の人々が移動を強いられ、ウイルスの循環が拡大することである。これらの問題解決には、各国の保健省と支援者(NGOや国際機関)との密な協力が不可欠である。

黄熱の同時多発的な流行が起きると、当該国の対応能力を圧迫し、国際社会の支援能力を超えることもありうる。

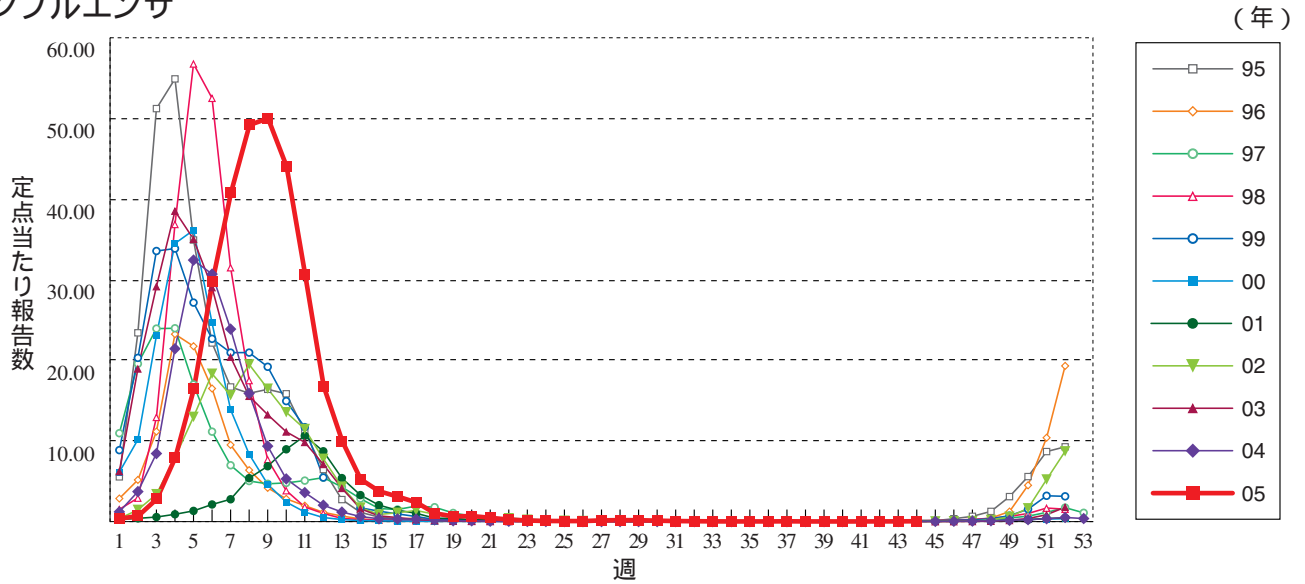


感染症の話

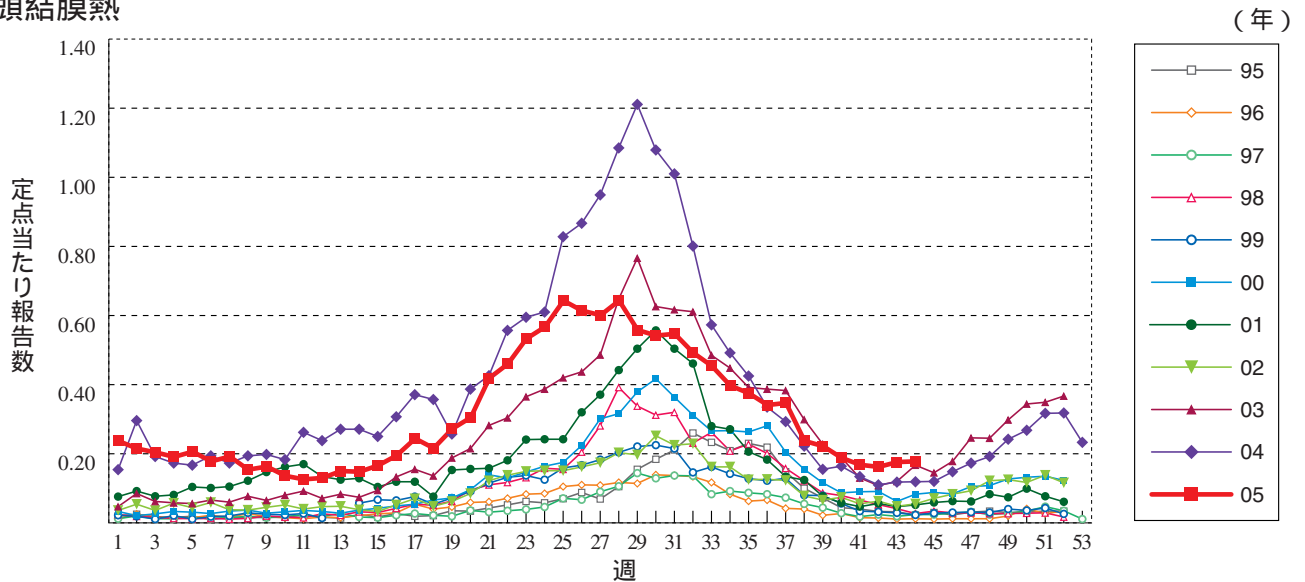
今週はお休みさせていただきます。
「感染症の話」過去の掲載分については
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/index.html>
でご覧いただけます。

グラフ総覧(4 4 週)

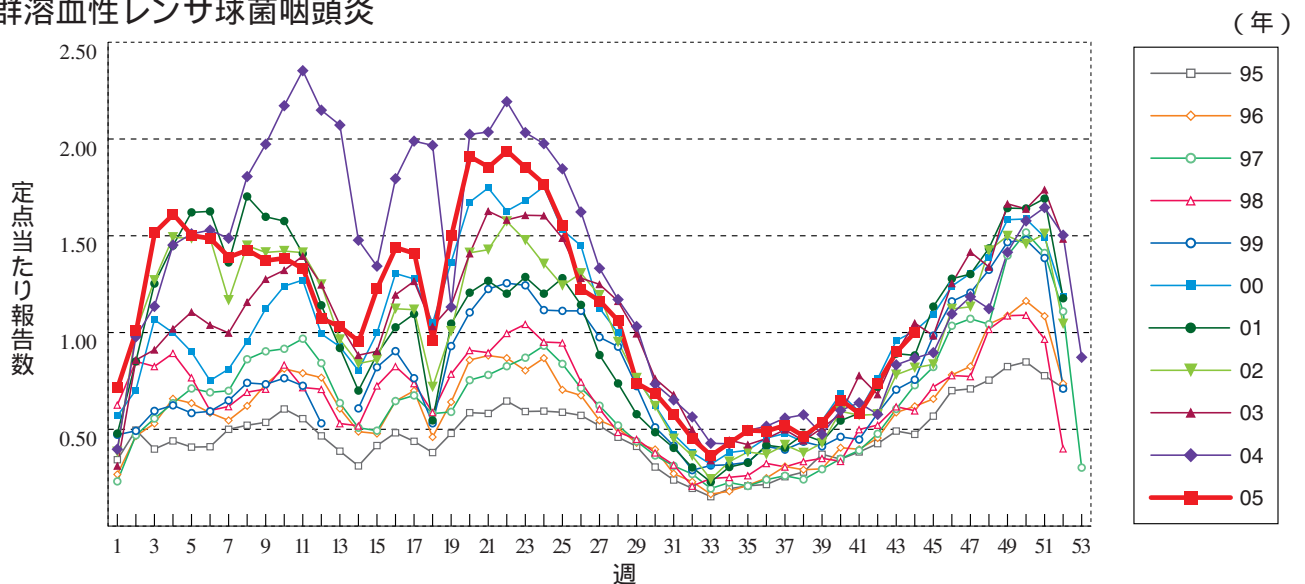
インフルエンザ



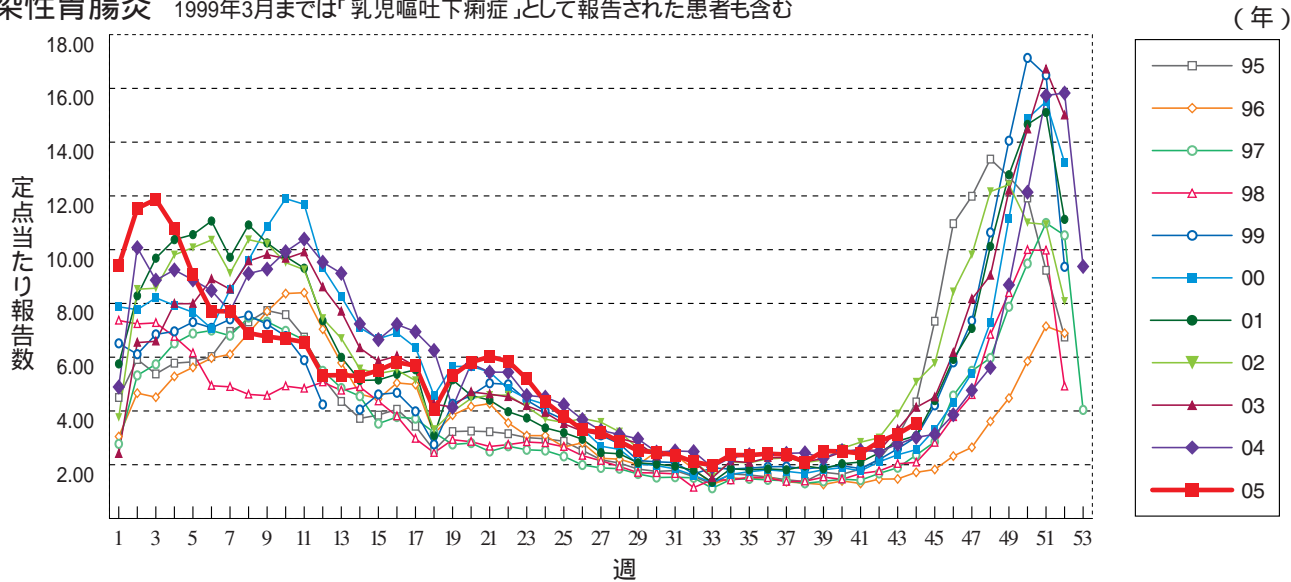
咽頭結膜熱



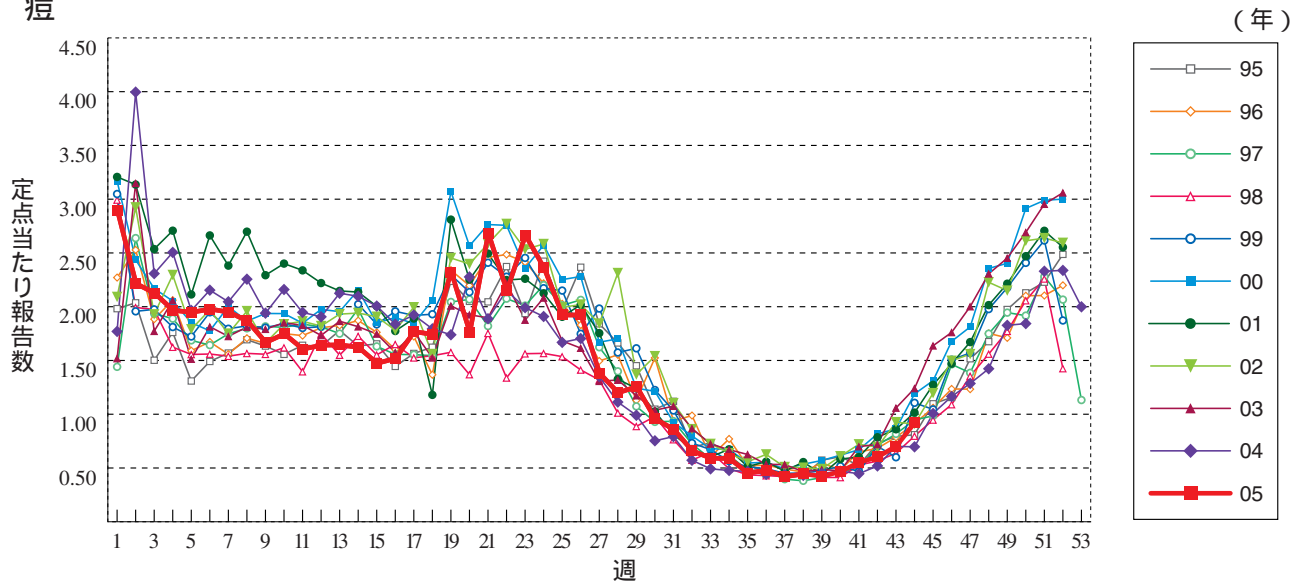
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



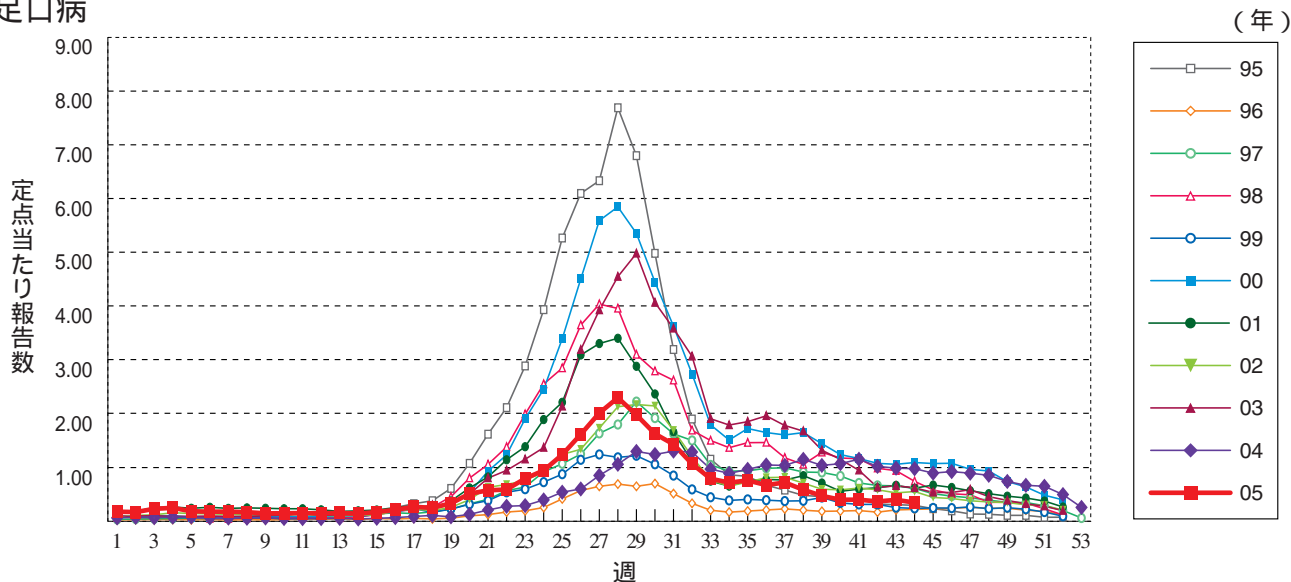
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



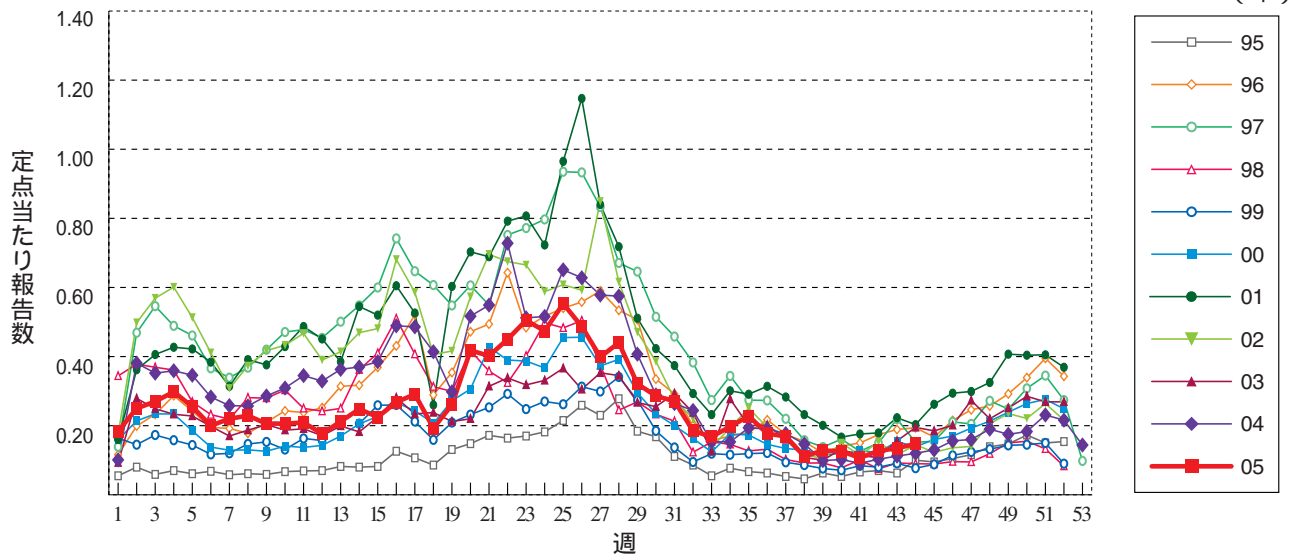
水痘



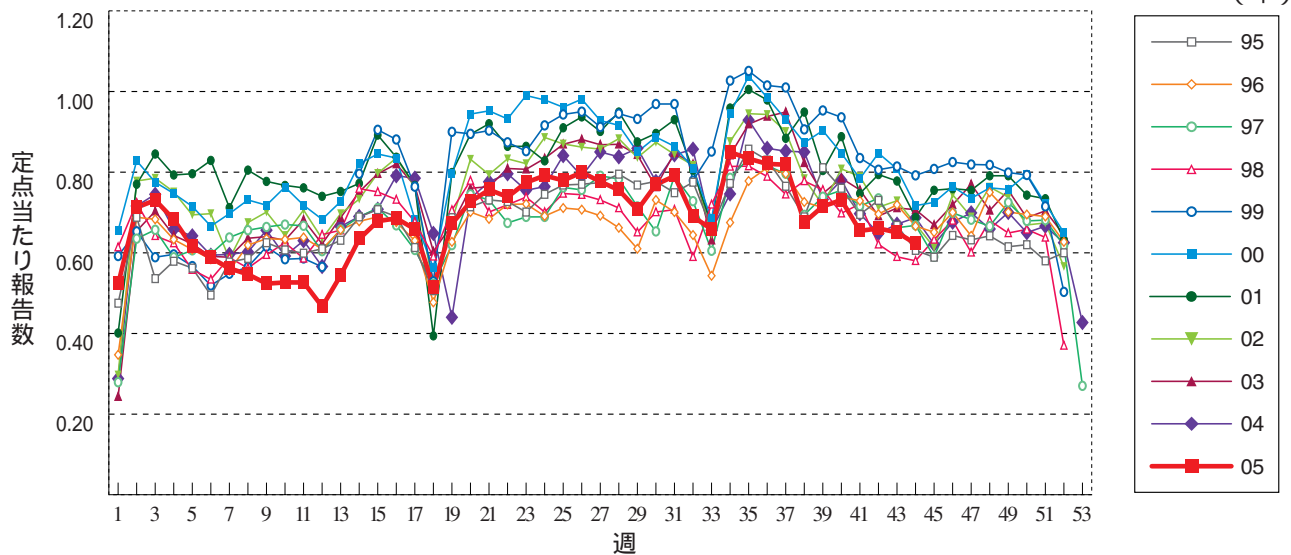
手足口病



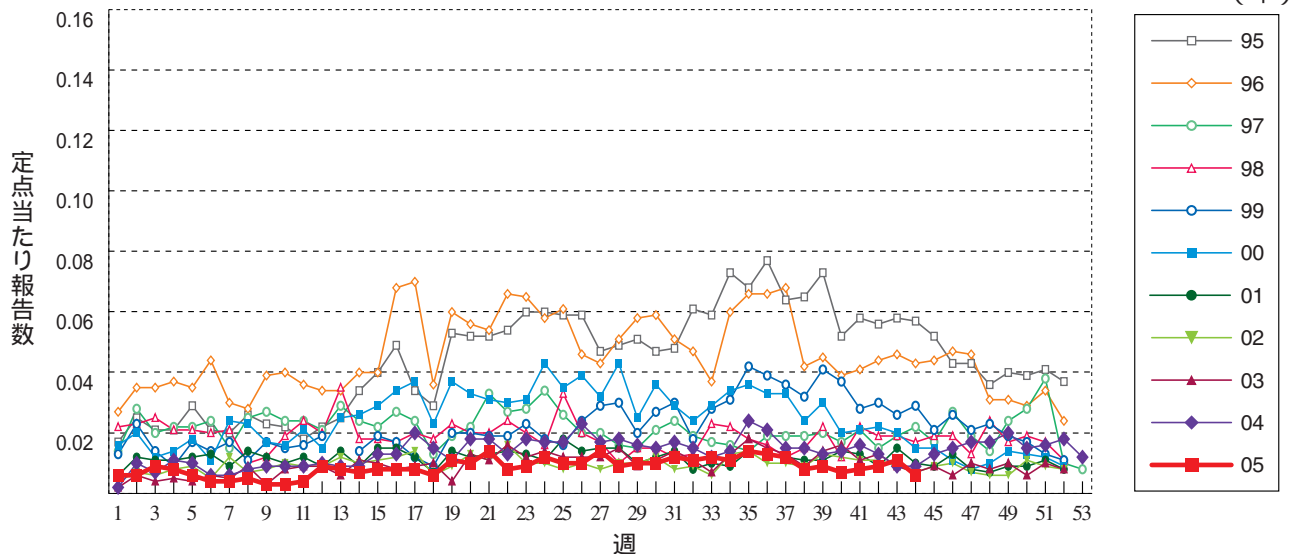
伝染性紅斑



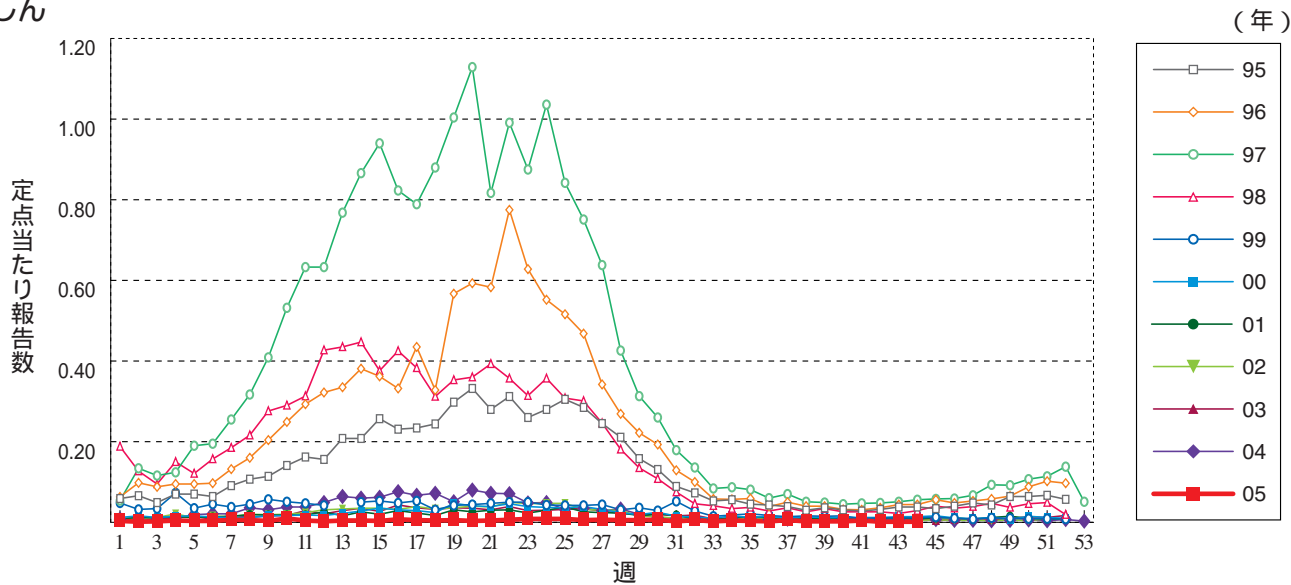
突発性発しん



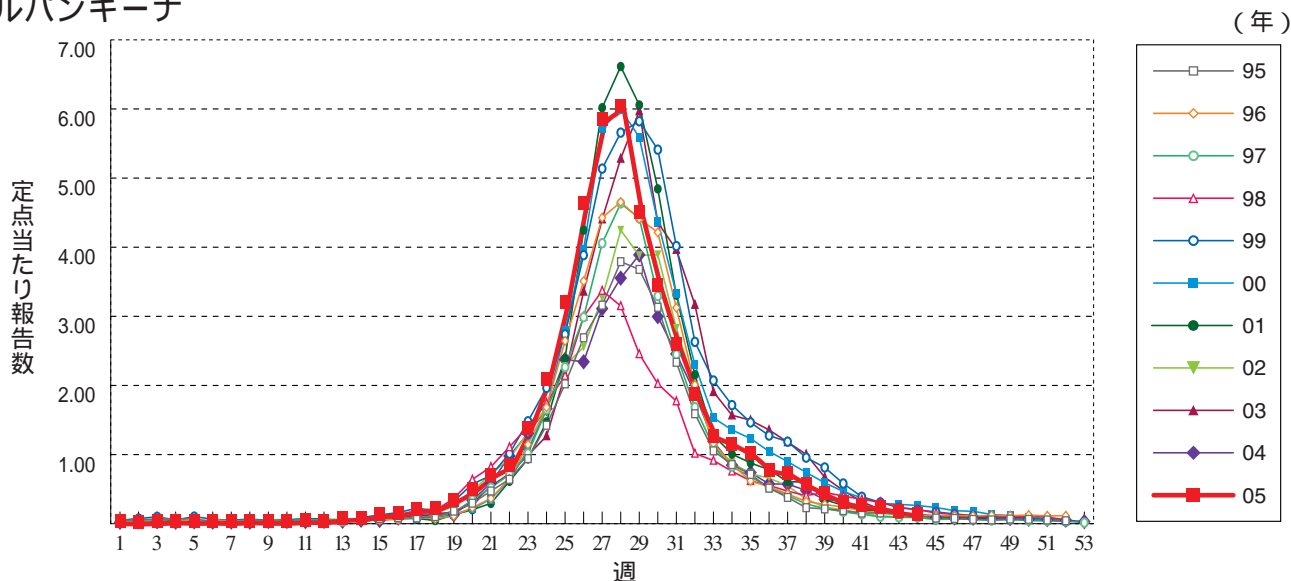
百日咳



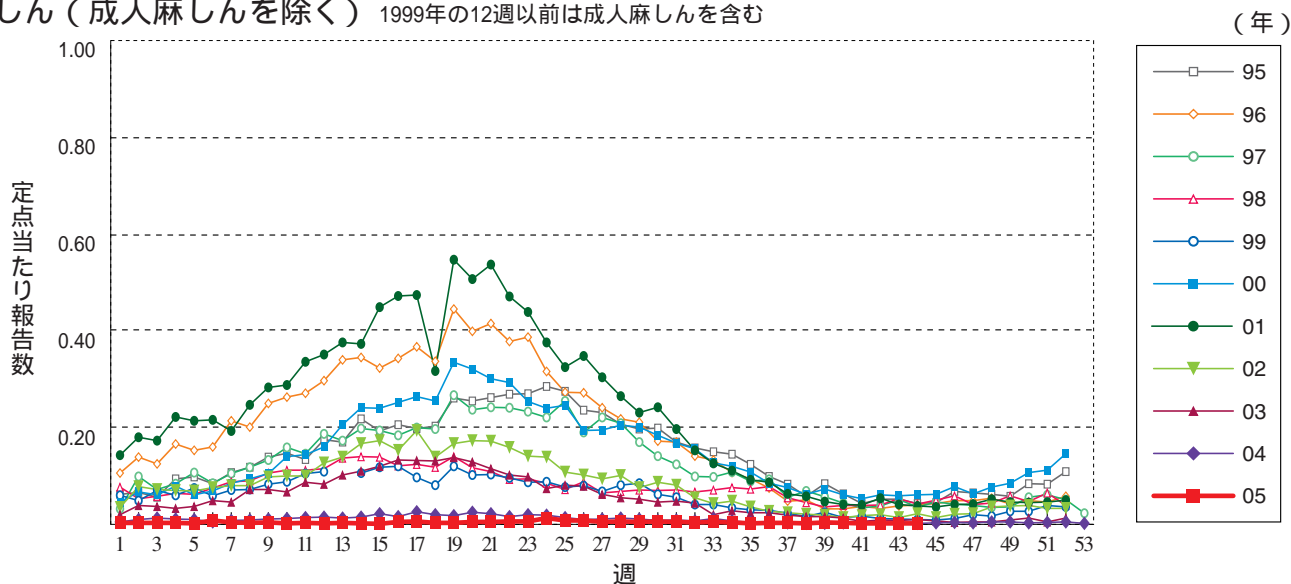
風しん



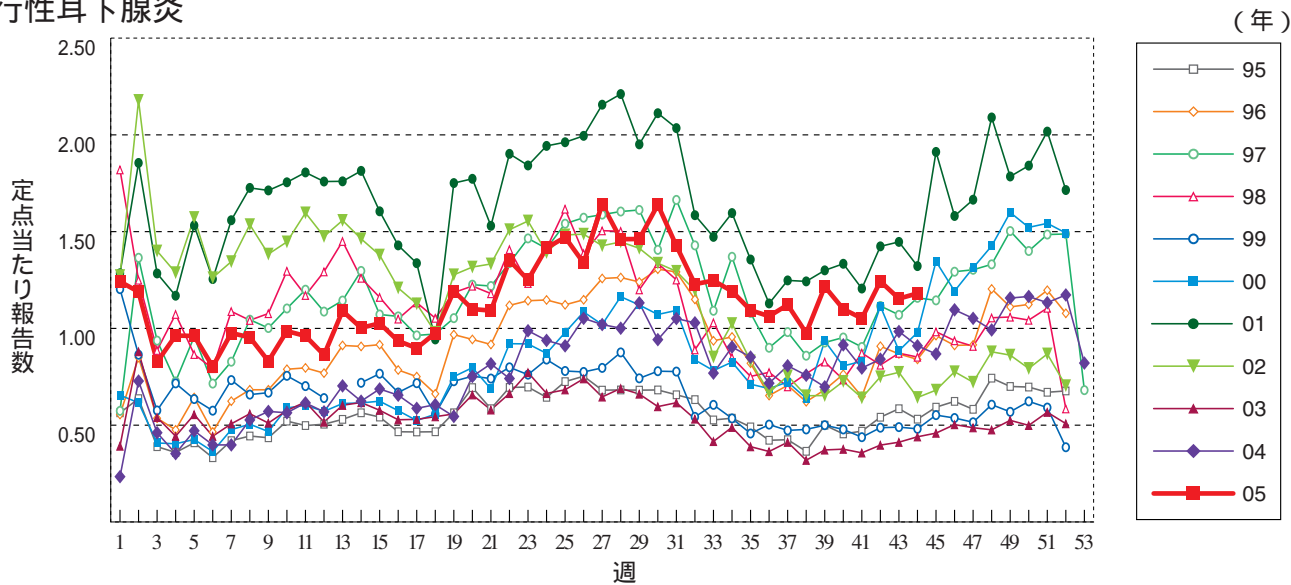
ヘルパンギーナ



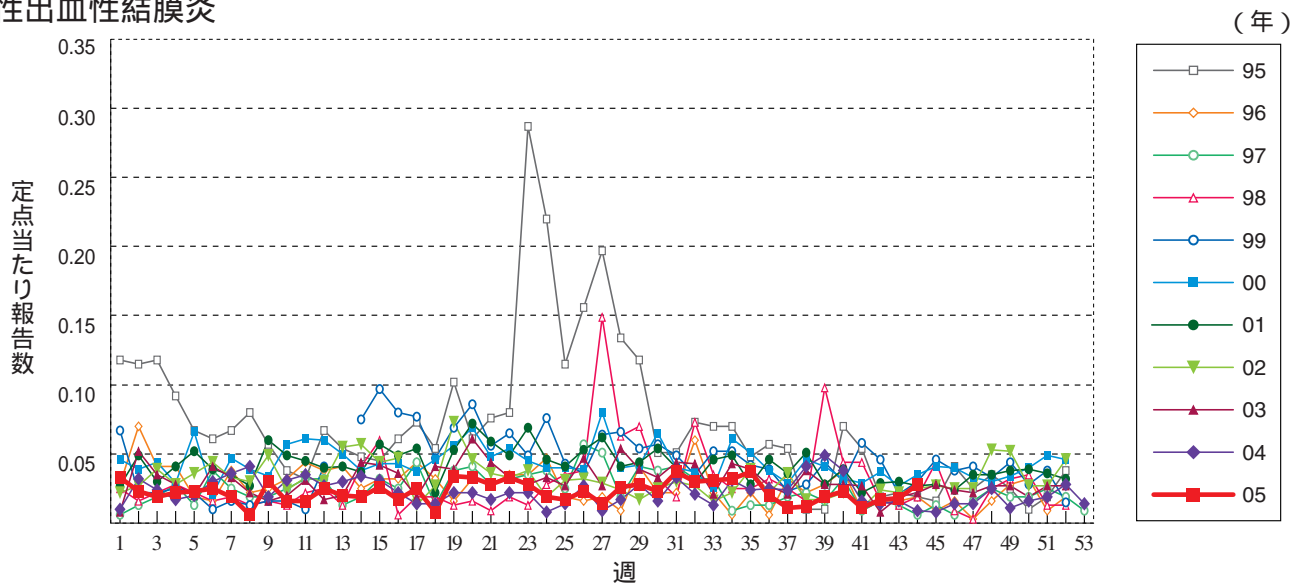
麻疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



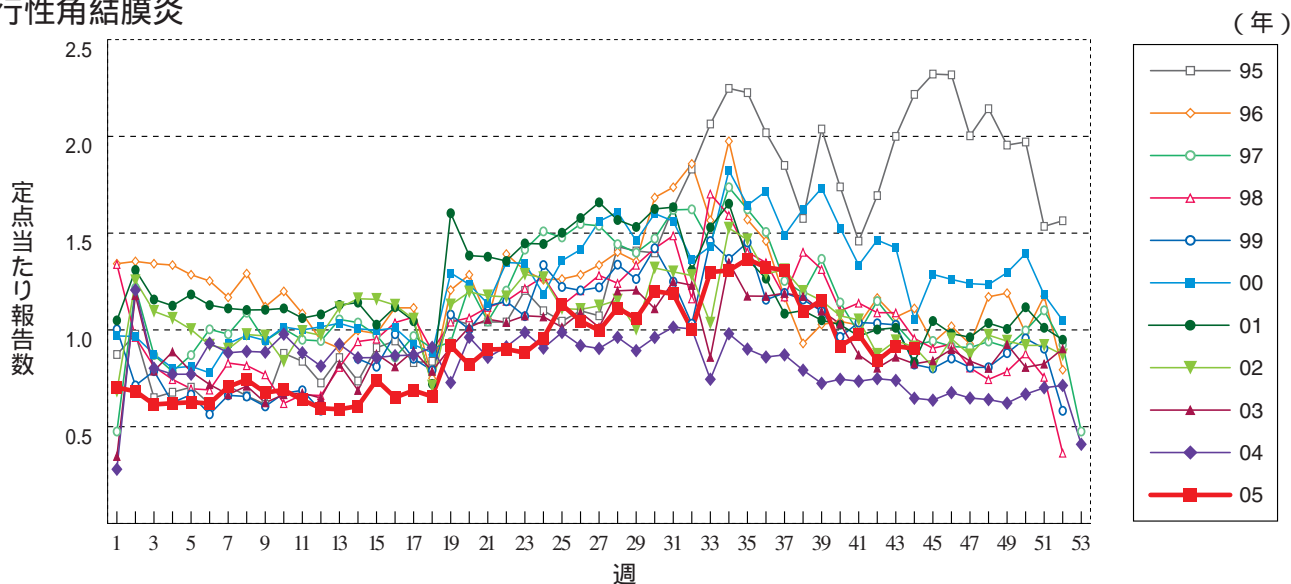
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

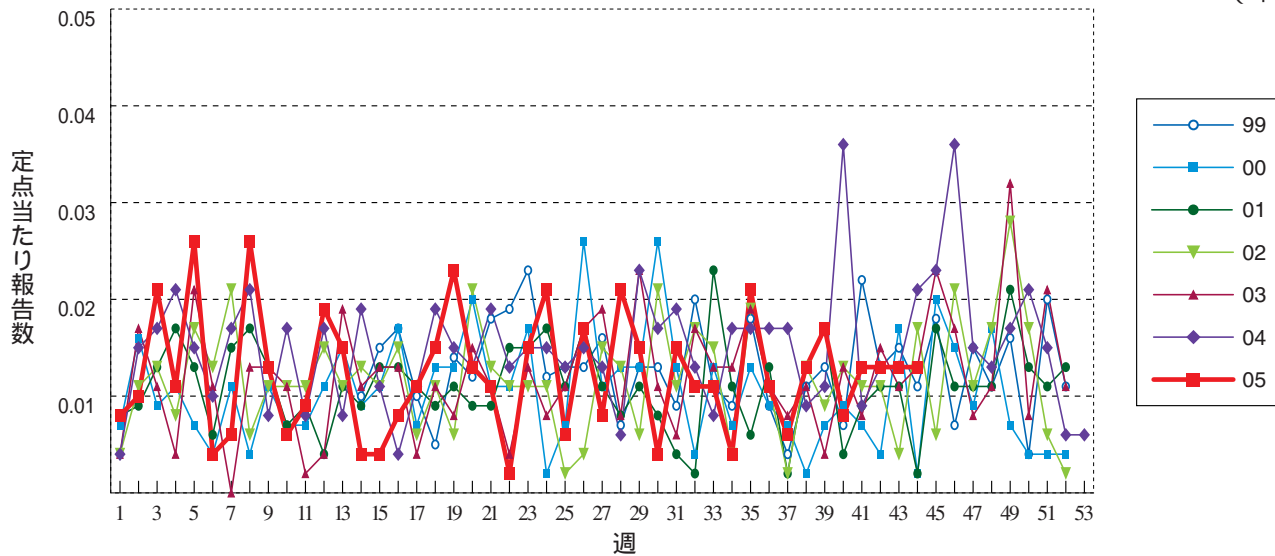


流行性角結膜炎



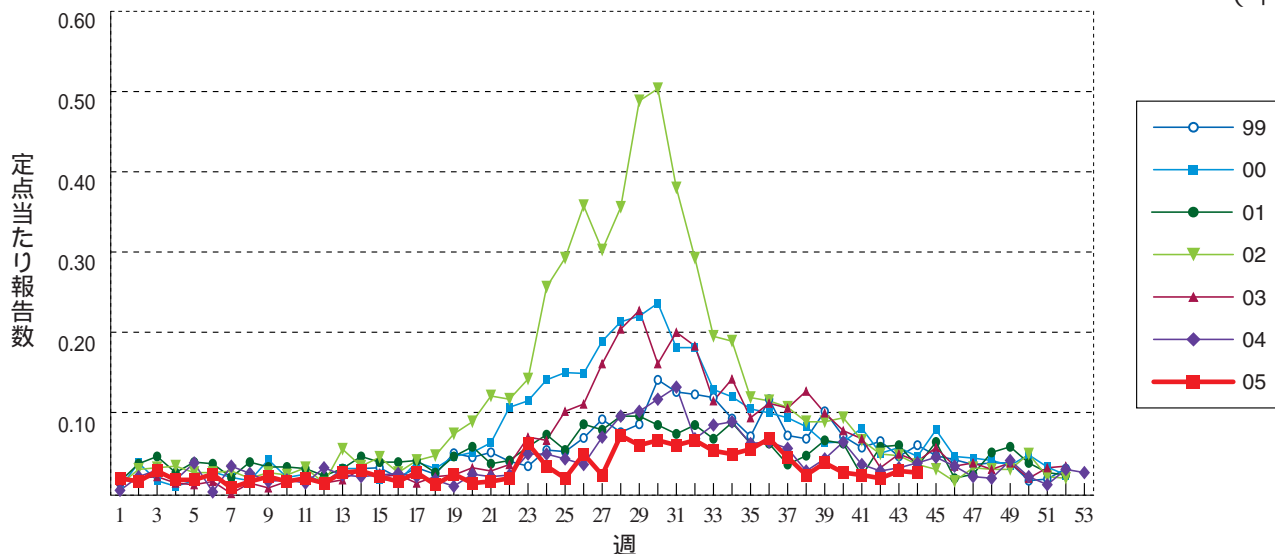
細菌性髄膜炎

(年)



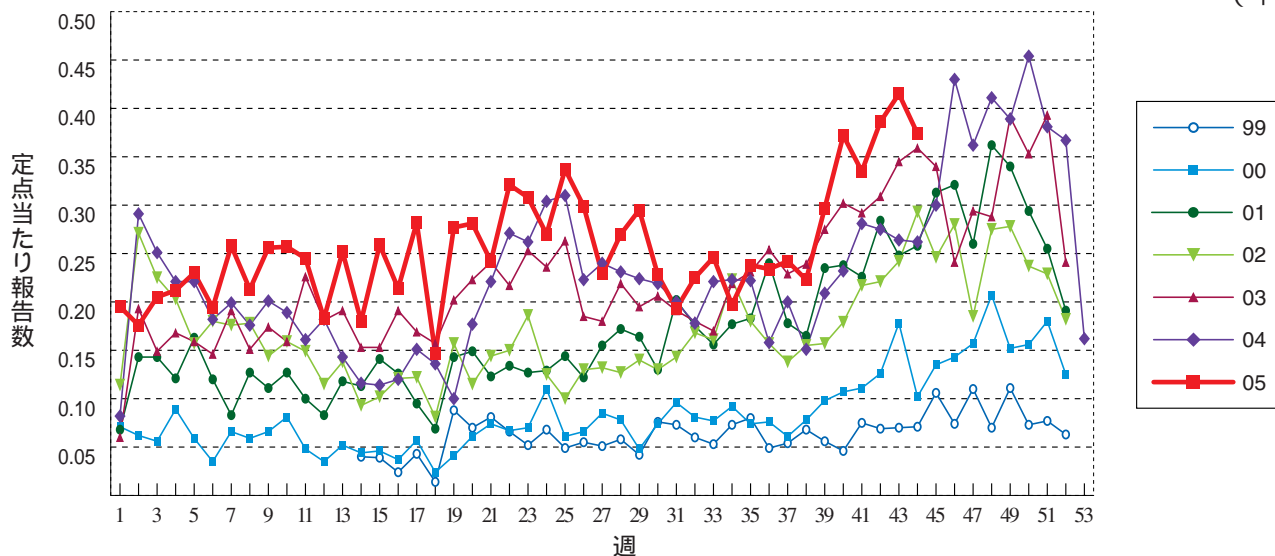
無菌性髄膜炎

(年)

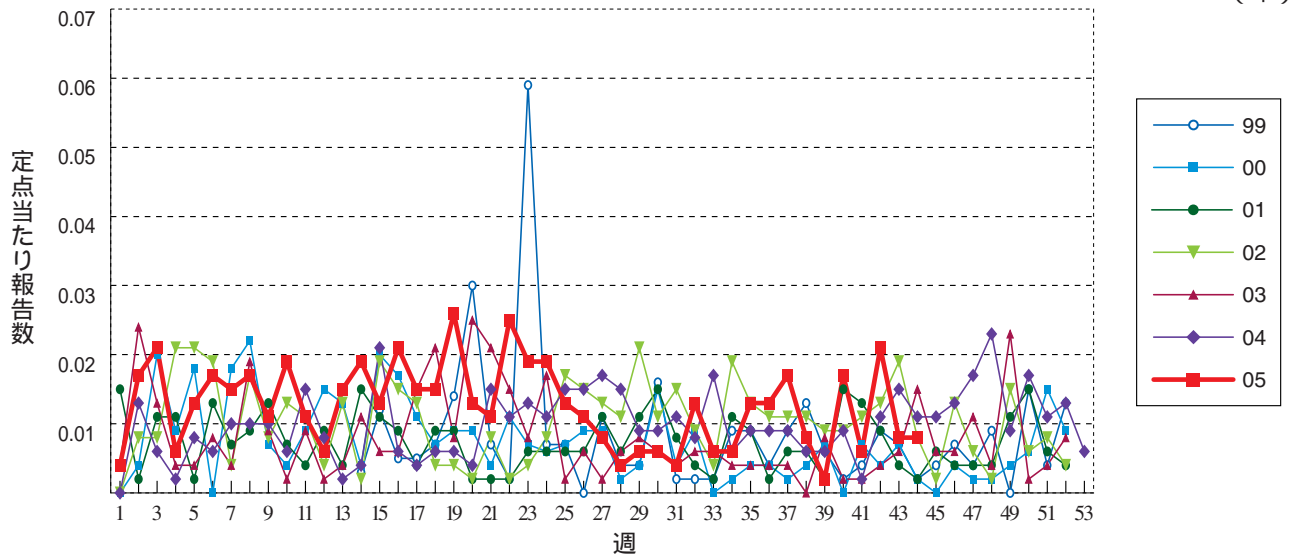


マイコプラズマ肺炎

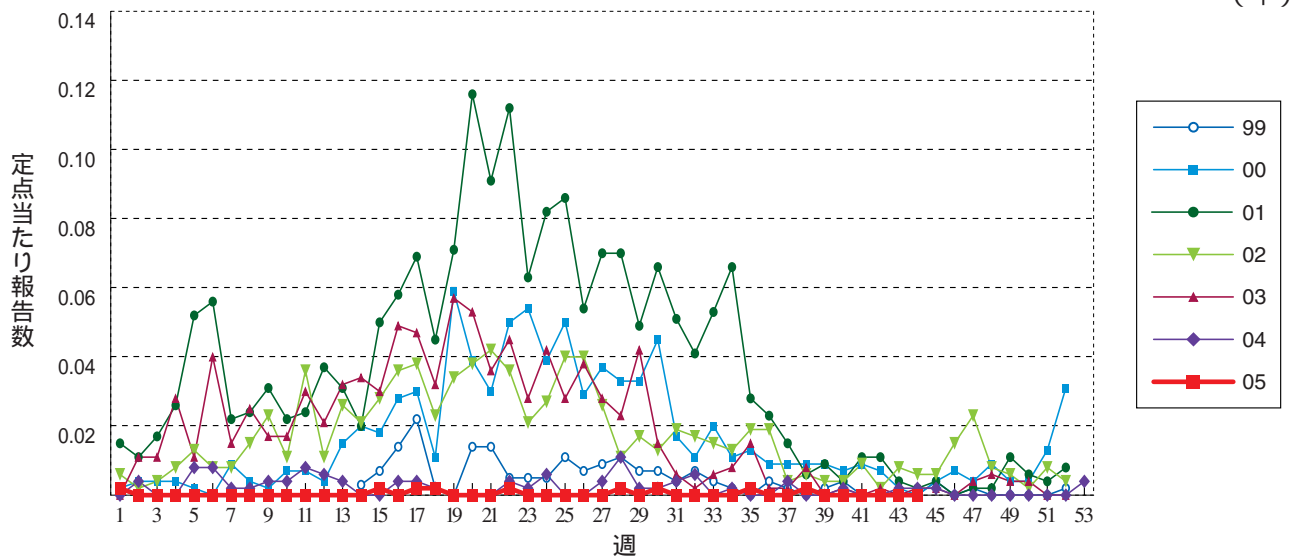
(年)



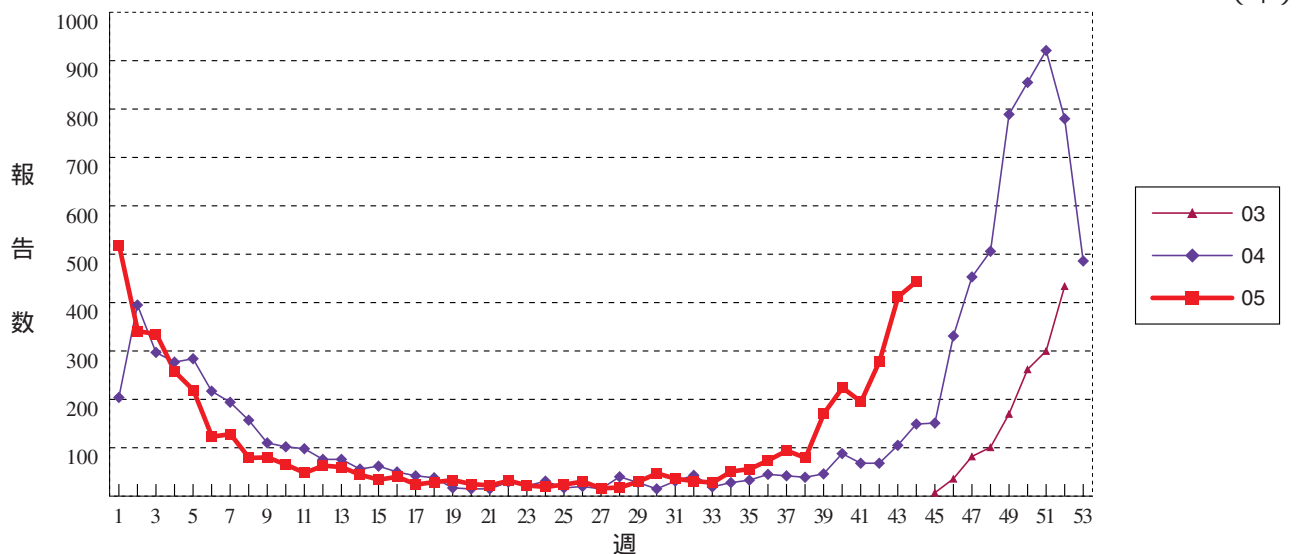
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。





4 4週 の データ

注) 表中の報告数は11月10日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成17年44週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47	2	499	-	45	-	16	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	4	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	48	-	3	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	2	81	-	11	-	4	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21	-	1	-	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	62	-	6	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	84	-	5	-	1	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	10	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	11	-	1	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	31	-	2	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	48	3231	7	595	-	14	-	-	-	29	-	-	1	242
北海道	-	-	-	-	1	184	1	12	-	12	-	-	-	1	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	83	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
宮城県	-	-	-	-	1	94	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
秋田県	-	-	-	-	-	50	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	44	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	23	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	36	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	1	22	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	55	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	2	107	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	3	136	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	-	-	-	-	-	227	4	165	-	1	-	-	-	2	-	-	-	32
神奈川県	-	-	-	-	-	127	-	49	-	-	-	-	-	1	-	-	-	16
新潟県	-	-	-	-	-	25	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	77	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	32	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福井県	-	-	-	-	-	24	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	2	61	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	1	50	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	87	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	3	174	-	43	-	-	-	-	-	6	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	1	37	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	-	-	12	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	50	1	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大阪府	-	-	-	-	1	252	-	71	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25
兵庫県	-	-	-	-	7	140	-	27	-	-	-	-	-	6	-	-	-	25
奈良県	-	-	-	-	-	42	-	7	-	1	-	-	-	2	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	22	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	64	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	2	115	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
広島県	-	-	-	-	-	62	1	10	-	-	-	-	-	2	-	-	-	10
山口県	-	-	-	-	11	61	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	24	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	21	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	2	138	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
佐賀県	-	-	-	-	5	58	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	-	-	-	-	48	-	2	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	2	47	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	1	100	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	1	92	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
鹿児島県	-	-	-	-	1	48	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	33	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	8	-	131	-	49	11	984	-	3	-	62	-	-
北海道	-	1	-	-	-	4	-	8	-	-	-	15	-	-	-	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	1	26	-	-	-	5	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	13	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	33	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	42	-	-	-	1	-	-
東京都	-	3	-	-	-	1	-	14	-	3	3	346	-	-	-	9	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	2	-	10	-	2	-	50	-	1	-	14	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	6	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	18	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	2	29	-	-	-	5	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	1	67	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	11	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	5	-	6	1	120	-	-	-	6	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	3	-	21	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	5	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	12	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	11	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	25	-	-	-	5	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	10	-	1	-	-	8	124	2	63	-	55	2	5	3	448	3	90
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	8	-	4
青森県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	8	-	4
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2
山形県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	2	15	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	5	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	11	1	5
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	8	-	5
東京都	-	3	-	-	-	-	-	2	2	24	-	-	-	-	2	77	-	1
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	21	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	17	-	2
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	38	1	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	6	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	11	-	2
大阪府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	59	-	1
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	14	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	12	1	1	-	1	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	6	1	4
山口県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	5	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	4
高知県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	9	-	-	-	4	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	22	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	4	-	2
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	1	-	20	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	5	-	4
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	13	-	-	-	12	-	9
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	58	-	-	-	-	-	1	-	-	-	60	-	7	5	225
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	15
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
東京都	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18	-	4	2	20
神奈川県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	13
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
岐阜県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	1	15
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大阪府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	17
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
広島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	37	-	1	-	153	-	-	-	-	-	-	-	2
北海道	-	-	-	-	-	7	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	6	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	野 兎 病		リッサウイルス感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	9	-	161	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	-	18	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	225	0.05	542	0.18	3055	1.00	10803	3.54	2815	0.92	1061	0.35	448	0.15	1904	0.62	17	0.01
北海道	1	0.00	36	0.25	304	2.10	325	2.24	162	1.12	19	0.13	14	0.10	52	0.36	-	-
青森県	-	-	-	-	16	0.38	60	1.43	48	1.14	7	0.17	26	0.62	25	0.60	-	-
岩手県	3	0.05	-	-	26	0.70	219	5.92	44	1.19	18	0.49	3	0.08	11	0.30	-	-
宮城県	4	0.04	30	0.49	78	1.28	169	2.77	60	0.98	31	0.51	16	0.26	29	0.48	1	0.02
秋田県	-	-	8	0.23	21	0.60	178	5.09	34	0.97	5	0.14	7	0.20	17	0.49	-	-
山形県	-	-	22	0.73	55	1.83	59	1.97	30	1.00	9	0.30	3	0.10	24	0.80	-	-
福島県	2	0.03	9	0.19	43	0.90	157	3.27	49	1.02	11	0.23	38	0.79	30	0.63	-	-
茨城県	2	0.02	2	0.03	105	1.42	131	1.77	43	0.58	17	0.23	10	0.14	31	0.42	-	-
栃木県	-	-	4	0.09	23	0.50	77	1.67	45	0.98	15	0.33	10	0.22	23	0.50	-	-
群馬県	-	-	10	0.16	58	0.95	274	4.49	41	0.67	70	1.15	5	0.08	33	0.54	2	0.03
埼玉県	2	0.01	17	0.10	223	1.37	783	4.80	178	1.09	86	0.53	18	0.11	133	0.82	-	-
千葉県	36	0.17	3	0.02	157	1.19	325	2.46	159	1.20	36	0.27	29	0.22	85	0.64	2	0.02
東京都	2	0.01	43	0.30	145	1.02	497	3.50	96	0.68	51	0.36	23	0.16	90	0.63	-	-
神奈川県	1	0.00	27	0.13	180	0.87	603	2.93	169	0.82	76	0.37	37	0.18	136	0.66	-	-
新潟県	-	-	7	0.11	92	1.48	112	1.81	134	2.16	42	0.68	5	0.08	46	0.74	-	-
富山県	-	-	2	0.07	19	0.66	86	2.97	10	0.34	12	0.41	2	0.07	16	0.55	-	-
石川県	-	-	9	0.31	20	0.69	106	3.66	35	1.21	5	0.17	-	-	19	0.66	-	-
福井県	6	0.19	12	0.55	26	1.18	100	4.55	38	1.73	-	-	-	-	16	0.73	-	-
山梨県	-	-	-	-	9	0.36	67	2.68	16	0.64	4	0.16	6	0.24	3	0.12	-	-
長野県	-	-	16	0.29	73	1.33	140	2.55	84	1.53	3	0.05	5	0.09	38	0.69	-	-
岐阜県	4	0.05	16	0.30	28	0.53	87	1.64	35	0.66	5	0.09	5	0.09	28	0.53	-	-
静岡県	1	0.01	15	0.17	88	1.02	345	4.01	70	0.81	18	0.21	5	0.06	78	0.91	-	-
愛知県	1	0.01	29	0.16	180	0.99	347	1.91	96	0.53	93	0.51	6	0.03	124	0.68	2	0.01
三重県	1	0.01	6	0.13	27	0.60	230	5.11	53	1.18	14	0.31	5	0.11	36	0.80	1	0.02
滋賀県	-	-	8	0.24	12	0.36	191	5.79	17	0.52	12	0.36	-	-	18	0.55	1	0.03
京都府	8	0.07	2	0.03	40	0.53	299	3.99	56	0.75	17	0.23	4	0.05	27	0.36	-	-
大阪府	5	0.02	54	0.27	201	1.02	568	2.87	129	0.65	55	0.28	15	0.08	95	0.48	1	0.01
兵庫県	15	0.08	16	0.13	144	1.13	939	7.34	107	0.84	43	0.34	19	0.15	83	0.65	-	-
奈良県	-	-	2	0.06	19	0.56	75	2.21	32	0.94	5	0.15	1	0.03	14	0.41	-	-
和歌山県	-	-	-	-	21	0.68	66	2.13	28	0.90	9	0.29	1	0.03	16	0.52	-	-
鳥取県	1	0.03	1	0.05	41	2.16	101	5.32	12	0.63	10	0.53	5	0.26	8	0.42	-	-
島根県	-	-	5	0.22	15	0.65	68	2.96	32	1.39	18	0.78	16	0.70	22	0.96	-	-
岡山県	1	0.01	7	0.13	22	0.41	206	3.81	63	1.17	37	0.69	8	0.15	29	0.54	-	-
広島県	11	0.09	14	0.19	49	0.65	299	3.99	87	1.16	5	0.07	5	0.07	37	0.49	1	0.01
山口県	-	-	12	0.24	76	1.55	169	3.45	74	1.51	10	0.20	10	0.20	38	0.78	-	-
徳島県	-	-	9	0.39	7	0.30	25	1.09	28	1.22	8	0.35	2	0.09	12	0.52	-	-
香川県	-	-	8	0.25	14	0.44	63	1.97	30	0.94	60	1.88	3	0.09	18	0.56	-	-
愛媛県	-	-	4	0.11	41	1.11	157	4.24	37	1.00	43	1.16	4	0.11	47	1.27	-	-
高知県	-	-	9	0.29	13	0.42	89	2.87	18	0.58	1	0.03	2	0.06	14	0.45	1	0.03
福岡県	6	0.03	23	0.19	134	1.12	890	7.42	116	0.97	15	0.13	40	0.33	104	0.87	3	0.03
佐賀県	-	-	10	0.43	20	0.87	42	1.83	32	1.39	17	0.74	3	0.13	27	1.17	2	0.09
長崎県	4	0.06	6	0.14	17	0.39	88	2.00	37	0.84	8	0.18	2	0.05	27	0.61	-	-
熊本県	32	0.40	4	0.08	36	0.75	219	4.56	44	0.92	20	0.42	16	0.33	36	0.75	-	-
大分県	-	-	3	0.08	47	1.31	256	7.11	17	0.47	3	0.08	1	0.03	33	0.92	-	-
宮崎県	1	0.02	6	0.16	51	1.38	259	7.00	23	0.62	14	0.38	5	0.14	34	0.92	-	-
鹿児島県	2	0.02	16	0.29	33	0.59	217	3.88	45	0.80	4	0.07	8	0.14	28	0.50	-	-
沖縄県	73	1.26	-	-	6	0.18	40	1.18	22	0.65	-	-	-	-	14	0.41	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	9	0.00	436	0.14	7	0.00	3603	1.18	18	0.03	585	0.90	6	0.01	13	0.03	176	0.37
北海道	1	0.01	22	0.15	-	-	157	1.08	-	-	50	1.67	-	-	-	-	8	0.35
青森県	1	0.02	6	0.14	-	-	38	0.90	-	-	12	1.09	-	-	2	0.33	-	-
岩手県	-	-	7	0.19	-	-	11	0.30	-	-	11	0.92	-	-	-	-	8	0.40
宮城県	-	-	4	0.07	-	-	87	1.43	-	-	4	0.33	-	-	-	-	8	0.67
秋田県	-	-	-	-	-	-	11	0.31	-	-	2	0.29	1	0.13	-	-	3	0.38
山形県	-	-	2	0.07	-	-	69	2.30	-	-	8	1.00	1	0.10	-	-	4	0.40
福島県	-	-	7	0.15	-	-	78	1.63	-	-	13	1.08	-	-	-	-	17	2.43
茨城県	-	-	1	0.01	-	-	118	1.59	-	-	20	1.25	-	-	-	-	1	0.09
栃木県	1	0.02	1	0.02	2	0.04	27	0.59	1	0.08	10	0.83	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.02	4	0.07	-	-	51	0.84	-	-	23	1.64	-	-	1	0.10	15	1.50
埼玉県	2	0.01	10	0.06	-	-	232	1.42	3	0.08	42	1.05	-	-	-	-	6	0.67
千葉県	-	-	9	0.07	-	-	138	1.05	1	0.03	13	0.37	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.01	30	0.21	2	0.01	166	1.17	-	-	6	0.43	-	-	-	-	3	0.12
神奈川県	-	-	14	0.07	3	0.01	240	1.17	1	0.02	39	0.93	-	-	1	0.08	3	0.25
新潟県	-	-	8	0.13	-	-	37	0.60	-	-	3	0.30	-	-	-	-	5	0.38
富山県	-	-	-	-	-	-	63	2.17	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.20
石川県	-	-	1	0.03	-	-	107	3.69	-	-	11	1.57	-	-	1	0.20	5	1.00
福井県	-	-	3	0.14	-	-	5	0.23	-	-	1	0.33	1	0.17	-	-	2	0.33
山梨県	-	-	1	0.04	-	-	20	0.80	-	-	3	1.00	-	-	1	0.10	6	0.60
長野県	-	-	2	0.04	-	-	153	2.78	1	0.09	16	1.45	-	-	-	-	4	0.36
岐阜県	-	-	7	0.13	-	-	39	0.74	1	0.08	17	1.42	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	9	0.10	-	-	125	1.45	-	-	12	0.60	-	-	-	-	2	0.20
愛知県	-	-	13	0.07	-	-	113	0.62	1	0.03	35	1.00	-	-	1	0.08	12	0.92
三重県	-	-	4	0.09	-	-	51	1.13	2	0.17	7	0.58	-	-	1	0.11	4	0.44
滋賀県	-	-	-	-	-	-	16	0.48	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.29
京都府	-	-	6	0.08	-	-	93	1.24	-	-	6	0.33	-	-	-	-	4	0.57
大阪府	-	-	11	0.06	-	-	162	0.82	1	0.02	25	0.48	-	-	-	-	19	1.36
兵庫県	-	-	15	0.12	-	-	69	0.54	-	-	14	0.40	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	2	0.06	-	-	29	0.85	-	-	3	0.33	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	1	0.03	-	-	52	1.68	-	-	3	0.75	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	1	0.05	2	0.11	-	-	55	2.89	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	6	0.26	-	-	26	1.13	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	4	0.07	-	-	45	0.83	1	0.08	4	0.33	-	-	-	-	6	1.20
広島県	1	0.01	5	0.07	-	-	154	2.05	-	-	21	1.05	-	-	1	0.05	3	0.16
山口県	-	-	11	0.22	-	-	69	1.41	-	-	3	0.33	-	-	-	-	8	0.89
徳島県	-	-	6	0.26	-	-	40	1.74	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	17	0.53	-	-	30	0.94	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	16	0.43	-	-	55	1.49	-	-	24	3.00	-	-	1	0.17	3	0.50
高知県	-	-	36	1.16	-	-	11	0.35	1	0.33	5	1.67	-	-	-	-	3	0.43
福岡県	-	-	37	0.31	-	-	132	1.10	-	-	27	1.04	1	0.07	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	2	0.09	-	-	24	1.04	-	-	3	0.75	-	-	1	0.17	1	0.17
長崎県	-	-	4	0.09	-	-	44	1.00	1	0.13	8	1.00	1	0.08	2	0.17	1	0.08
熊本県	-	-	25	0.52	-	-	84	1.75	-	-	31	3.44	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	2	0.06	-	-	34	0.94	1	0.20	1	0.20	1	0.09	-	-	-	-
宮崎県	-	-	36	0.97	-	-	29	0.78	-	-	14	3.50	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	-	-	22	0.39	-	-	66	1.18	-	-	7	1.00	-	-	-	-	2	0.17
沖縄県	-	-	5	0.15	-	-	148	4.35	-	-	20	2.00	-	-	-	-	1	0.14

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成17年44週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症 報告数
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	4	0.01	-	-	444
北海道	-	-	-	-	7
青森県	-	-	-	-	3
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	-	-	-	-	33
秋田県	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	5
福島県	1	0.14	-	-	10
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	-	-	-	-	24
群馬県	-	-	-	-	4
埼玉県	-	-	-	-	22
千葉県	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	32
神奈川県	-	-	-	-	30
新潟県	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	9
福井県	-	-	-	-	15
山梨県	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	6
静岡県	-	-	-	-	...
愛知県	-	-	-	-	23
三重県	-	-	-	-	15
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	2	0.29	-	-	3
大阪府	-	-	-	-	72
兵庫県	1	0.07	-	-	22
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	9
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	14
山口県	-	-	-	-	13
徳島県	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	...
佐賀県	-	-	-	-	4
長崎県	-	-	-	-	6
熊本県	-	-	-	-	6
大分県	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	35
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	2

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(...)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

平成16年10月1日より感染症法に基づく獣医師が届出を行う感染症と対象動物が追加されました。
*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年44週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群*						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	-	-	-	4	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

感染症週報 第7巻 第44号 平成17年11月18日発行
発行：国立感染症研究所
厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部
事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129
U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
< 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。